

令和7年度  
事業報告書

公益財団法人アイヌ民族文化財団

# 目 次

<概 況>	1
<事業報告>	
第1 アイヌ文化振興並びにアイヌ伝統等普及啓発等事業	
（公益目的事業1）	
Ⅰ アイヌに関する総合的かつ実践的な研究の推進	3
Ⅱ アイヌ語の振興	3
Ⅲ アイヌ文化の振興	7
Ⅳ アイヌの伝統等に関する普及啓発	15
Ⅴ アイヌ文化の伝承者育成	21
第2 民族共生象徴空間管理事業等	
Ⅰ 民族共生象徴空間管理事業	
（公益目的事業2）	
1 国立民族共生公園管理事業等	22
（公益目的事業3）	
2 国立アイヌ民族博物館管理事業	24
Ⅱ 民族共生象徴空間収益事業	35
<法人運営>	
第1 諸会議の開催	36
第2 法人運営体制	39
第3 賛助会員の状況	39

## <概況>

### 1 基本的な考え方

#### (当財団の使命)

当財団は、アイヌ施策推進法（平成31年）に基づき、その指定法人として、アイヌ文化の継承と振興、国民理解の促進に関する業務を適正かつ確実に実施することが求められている。

アイヌの人々が民族としての誇りを持って生活することができ、その誇りが尊重される社会の実現を図り、すべての国民が相互に人格と個性を尊重し合いながら共生する社会の実現に資することを目的として、当財団に課せられた業務の実施を通じて、わが国にとってもかけがえのない財産であるアイヌ文化について、その真価を次世代に伝えることが、当財団の大きな使命である。

#### (事業の推進)

当財団では、平成9年以来、根幹として実施してきたアイヌ文化振興・伝統等普及啓発事業と、国の委託事業として、令和2年に開業した民族共生象徴空間（ウポポイ）の管理運営事業の2つの事業を主要な柱として、事業運営を行っている。

これらの事業の実施に当たっては、アイヌの人々及びアイヌ文化の伝承活動に関わる人々の意向を尊重し、関係機関との連携を図りつつ、各事業を積極的に推進するとともに、各事業の効果をさらに高められるよう、事業の実施過程や結果に関する検証、事業内容の改善等に取り組むことが重要である。

また、主要な2つの事業は、その財源や実施方法などにおいて異なる点はあるが、当財団の使命に照らして、その実施に当たっては、相互に補完し、連携を図ることにより、事業の効果のさらなる向上を図ることが重要である。

#### (人材の養成等)

当財団が、持続的かつ自律的な事業運営を継続して行うことを通じて、その使命を果たすためには、様々な機会を通じた人材の養成とともに、自発的な創意工夫と積極的な取組を促す環境の整備を進めることが重要である。

なお、事業計画で掲げた基本方針に基づき実施した令和7年度の概況は次のとおりである。

### 2 事業の概況

#### (アイヌ文化振興・伝統等普及啓発事業)

アイヌ文化振興・伝統等普及啓発事業については、5つの基本的な事業により構成される体系の下で、アイヌ語振興をはじめ、アイヌ文化振興、普及啓発等の事業を継続して実施した。

アイヌの歴史や文化等への関心と理解を深められるよう、既存の普及啓発資料や映像資料を効果的に活用するとともに、情報発信の充実を図った。

特に、各種イベント（弁論大会、文化フェスティバル、工芸作品コンテスト等）の開催に当たっては、ウポポイと連携した情報発信や事前告知に努めるなどにより、広報業務の充実を図り、アイヌ語・アイヌ文化の普及に積極的に取り組んだ。

#### (民族共生象徴空間管理事業)

民族共生象徴空間管理事業については、ウポポイがアイヌ文化の復興等に関するナショナルセンターとして、アイヌの歴史・文化等に関する理解の促進の拠点、そして、将来に向けてアイヌ文化の継承及び新たなアイヌ文化の創造・発展につなげるための拠点という2つの目的の達成に向けて、引き続き、幅広い取組を積極的に実施した。

また、1人でも多くの国内外の方々アイヌの歴史や文化等に関する正しい知識と理解を得られるよう、年間来場者100万人の目標に向けて、来場者のニーズに合ったきめ細かな対応に注力した。

特に、ウポポイがわが国におけるアイヌ文化の継承及び新たなアイヌ文化の創造・発展に関する中核的な役割を担うため、ウポポイとアイヌ文化伝承活動等が盛んな地域の団体や文化施設等とのネットワーク化を推進し、それらを核としたアイヌ文化復興等のための幅広い取組を実施した。

このため、園内ガイド機能や体験メニューの拡大など来場者とのコミュニケーションを大切にした取組をさらに推進するとともに、初めての来場者にも分かりやすい展示となるよう博物館展示の改善・充実を図った。また、来場者の立場に立ったサービス、コンテンツの充実を図り、特に、教育旅行においては、学校のニーズ等を踏まえ、児童生徒や学生が楽しみながら学べるコンテンツの充実を図った。

併せて、ウポポイへのアクセス手段の拡充、周辺地域とのネットワークの強化等に取り組む。

また、4月から10月まで開催された大阪・関西万博において、万博会場における舞踊披露や資料展示、博物館での海外展の開催などを通じて、訪日外国人に向けたアイヌ文化に関する情報発信を積極的に展開した。

## ＜事業報告＞

### 第1 アイヌ文化振興並びにアイヌ伝統等普及啓発等事業

#### (公益目的事業1)

#### I アイヌに関する総合的かつ実践的な研究の推進

##### 1 アイヌ関連研究事業

アイヌに関する総合的・実践的研究を行う事業及び研究成果などの出版に対して助成を行い、アイヌの社会や文化に関する研究の推進を図った。

##### ①研究・出版助成

##### (7) アイヌ社会関連研究助成、アイヌ文化関連研究助成

アイヌの社会や文化に関する総合的・実践的研究を行うものの中で、優れた研究成果の期待できる研究計画に対し経費の助成をした。

##### (4) アイヌ社会関連出版助成、アイヌ文化関連出版助成

アイヌの社会や文化に関する出版物で、商業ベースに乗らないものや自費出版のため発行部数が少なく、研究者などに行き渡らない出版物について助成した。

(単位：千円)

区 分	予算額		申請実績		交付実績		
	件数	金額	件数	金額	件数	金額	
研究 助成	一般	2	3,000	5	6,195	3	2,694
	奨励	2	600	0	0	0	0
出版助成		6	7,200	2	2,586	2	2,585
合 計		10	10,800	7	8,781	5	5,279

##### (7) 研究成果集の刊行

##### (a) 登載審査委員

役職名	氏 名	摘 要
委員	小川 哲也	令和7年度アイヌ民族文化財団事業運営委員長
委員	斉藤 大朋	令和7年度アイヌ民族文化財団助成事業審査委員
委員	菅原 勝吉	令和7年度アイヌ民族文化財団助成事業審査委員長
委員	菅原 慶郎	令和7年度アイヌ民族文化財団助成事業審査委員
委員	藤岡千代美	令和7年度アイヌ民族文化財団事業運営委員

##### (b) 審査 (在宅審査)

審査期間	審査対象	摘 要
9月29日(月)～10月28日(火)	5件	審査委員に成果品(写し)を送付し、在宅審査を行う

##### (c) 作成・配布概要

タイトル	作成時期	作成数	主な配布先
アイヌ関連総合研究等助成事業 研究報告第25号	1月	900冊	道内市町村教育委員会、主な公共図書館、大学付属図書館、博物館、各アイヌ協会等のアイヌ関係団体、研究機関

## II アイヌ語の振興

### 1 アイヌ語教育事業

#### ①指導者育成

アイヌ語教育の充実に向けて、アイヌ語研究者などの協力を得て、アイヌ語の文法や言語学の基礎を踏まえた効果的な指導方法などについての学習機会を提供し、アイヌ語指導者の育成を図った。

**(7) 講師**

氏名	摘要
北原モコトウナシ	北海道大学アイヌ・先住民研究センター教授
葛野 大喜	アイヌ語指導者育成第11期修了生
佐藤 知己	北海道大学大学院文学研究院特任教授
中川 裕	千葉大学名誉教授
八谷 麻衣	令和6年度アイヌ語指導者育成事業講師
中井 貴規	民族共生象徴空間運営本部伝承課課長補佐
山丸 賢雄	民族共生象徴空間運営本部伝承課主事

**(イ) 講師会議**

開催日	開催場所	協議事項等
5月30日(金)	財団会議室	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和7年度フォローアップ参加希望及びカリキュラムについて</li> <li>令和7年度第14期第1回スクーリング実施に係るカリキュラム等について</li> <li>その他</li> </ul>
10月18日(土)	財団会議室	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和7年度第2回スクーリングのカリキュラムについて</li> </ul>
11月8日(土)	財団会議室	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和7年度第3回スクーリングのカリキュラムについて</li> </ul>
2月6日(金)	財団会議室	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和8年度フォローアップ実施に係る日程及び会場について</li> <li>令和8年度スクーリング実施に係る日程及び会場について</li> <li>令和8年度第1回講師会議について</li> <li>令和8年度アイヌ語指導者育成事業に係る講師就任依頼について</li> </ul>

**(ウ) スクーリング**

開催期間	開催場所	受講生
10月17日(金)～10月19日(日)	財団会議室	楠本 直嗣 毛房 千夏 今 博明 今 真規 新町 征也 原田 啓介 光野 智子
11月7日(金)～11月9日(日)	財団会議室	
12月5日(金)～12月7日(日)	財団会議室	

**(エ) フォローアップ講座**

開催期間	開催場所	受講生
6月27日(金)～6月29日(日)	アイヌ文化交流センター (東京都台東区)	一ノ関清美 上河 彩 川上さやか 川上 夏希 早坂 駿 米澤 諒 (リモート参加) 工藤 小夜 深澤みよの

**②上級講座**

アイヌ語教育の充実に向けて、アイヌ語研究者などの協力を得て、中級話者を対象に地域において講座を開設し、将来、アイヌ語の指導者となる上級話者の育成を図った。

開催地区	講師	受講者数	開催期間	開催回数
東京	中川 裕	12名	4月26日(土)～3月7日(土)	10回
阿寒	志賀 雪湖	3名	11月7日(金)～2月20日(金)	16回
札幌	多原 良子	5名	7月4日(金)～11月14日(金)	16回
平取	関根 健司	5名	5月23日(金)～1月23日(金)	16回
むかわ	原田 梨乃	5名	6月21日(土)～1月31日(土)	16回

### ③初級講座

#### (7) 親と子のアイヌ語学習

アイヌ民族の親子を対象とし、アイヌ語話者及びアイヌ語研究者などの協力を得て、アイヌ語の振興及びアイヌの伝統や文化の保存を図った。

開催地区	講師	受講者数	開催期間	開催回数
東京	石川美香穂	4家族12名	4月12日(土)～3月7日(土)	21回
札幌	川上夏希	5家族14名	7月30日(日)～2月28日(土)	24回

#### (4) 入門講座

アイヌ語伝承者のさらなる掘り起こしと裾野の拡大を目的にアイヌ語を学習、習得及び継承しようとする意欲のある未経験者を対象とした入門講座を実施し、中級話者及び上級話者の育成につなげた。

開催地区	講師	受講者数	開催期間	開催回数
東京	成田英敏	17名(累計185名)	5月14日(水)～3月11日(水)	20回
札幌	川上夏希	25名(累計173名)	5月31日(土)～1月31日(土)	20回
白老	山丸賢雄	14名(累計63名)	6月6日(金)～12月19日(金)	14回
平取	原田梨乃	13名(累計93名)	5月20日(火)～2月4日(水)	18回
むかわ	押野千恵子	35名(累計115名)	5月19日(月)～11月17日(日)	20回

## 2 アイヌ語普及事業

### ①アイヌ語発信講座

#### (7) ラジオ講座

アイヌ語を広く一般に普及させるため、初心者向けのアイヌ語講座をSTVラジオから放送し、多くの人にアイヌ語に触れ、学習する機会を提供するとともに、アイヌ語やアイヌ文化への理解の促進を図った。

##### (a) 放送内容

放送局	放送日・放送時間	講師
STVラジオ	毎週日曜日あさ7:00～7:15	川上恵

##### (b) テキスト

種別	作成時期	作成数	主な配布先
令和7年度Vol.2(7月～9月放送分)	6月	3,000部	各アイヌ協会、博物館、図書館、各アイヌ語教室、アイヌ語関係者など
令和7年度Vol.3(10月～12月放送分)	9月	3,000部	
令和7年度Vol.4(1月～3月放送分)	12月	3,000部	
令和8年度Vol.1(4月～6月放送分)	3月	3,000部	

#### (4) 動画講座

初心者向けのアイヌ語の動画講座をインターネットで配信することにより、多くの人にアイヌ語に触れ、学習する機会を提供するとともにアイヌ語やアイヌ文化への理解の促進を図った。

##### (a) 配信内容

配信動画	配信方法
年間25本制作	動画共有サービス YouTube

##### (b) 企画編集委員

役職名	氏名	摘要
委員長	中川裕	千葉大学名誉教授
委員	北原モコットウナシ	北海道大学アイヌ・先住民研究センター教授
委員	佐藤知己	北海道大学大学院文学研究院特任教授

役職名	氏名	摘要
委員	関根 健司	平取町教育委員会生涯学習課アイヌ文化学習係
委員	荒田このみ	民族共生象徴空間運営本部企画調整課主査
委員	山丸 賢雄	民族共生象徴空間運営本部伝承課主事

### (c) 企画編集委員会

開催日	開催場所	協議事項等
4月15日(火)	財団会議室	・令和7年度の進め方について(令和6年度を踏まえて) ・令和7年度の動画内容について
6月4日(水)	財団会議室	・令和7年度の動画内容について

## ②弁論大会

アイヌ語を学んでいる人々の学習成果を発表する場として、アイヌ語による弁論大会を開催し、その学習意欲の向上を図るとともに、開催地域の人々にアイヌ語を直接耳にする機会を設けアイヌ語の普及を図った。

### (7) 開催日

11月24日(月祝)、来場者244名

### (i) 開催場所

苫小牧市民会館

### (v) 出場者

募集期間 7月1日(火)～9月1日(月)

区分	発表内容	出場者数	受賞者数
子どもの部	自由	10組14名	3組7名
大人の部	口承文芸部門	19組19名	3組3名
	弁論部門	3組3名	1組1名
口演の部	自由表現部門	0組0名	—

### (I) 審査委員

役職名	氏名	摘要
委員長	菅原 勝吉	新ひだかアイヌ協会民族文化専門員
委員	川村 久恵	川村カ子トアイヌ記念館副館長
委員	中井 貴規	民族共生象徴空間運営本部伝承課課長補佐
委員	山道ヒビキ	民族共生象徴空間運営本部芸能課課長補佐

### (f) 受賞者

区分	発表内容	受賞者
最優秀賞	子どもの部	自由 新倉 和苗(静岡県)
	大人の部	口承文芸部門
弁論部門		高橋 祐紀(平取町)
優秀賞	子どもの部	自由 Tokapci un kur santek ekattar(札幌市) 小川 神威(小樽市)
		大人の部
	弁論部門	—

### (h) 成果品

種別	作成時期	作成数	主な配布先
出場者募集ポスター	6月	450枚	各アイヌ協会、博物館、図書館、各アイヌ語教室、 アイヌ語関係者など
出場者募集チラシ	6月	3,000枚	

種 別	作成時期	作成数	主な配布先
プログラム	11 月	400 部	来場者へ配布
報告用動画	1 月	—	財団ホームページにて公開

### Ⅲ アイヌ文化の振興

#### 1 アイヌ文化伝承再生事業

##### ①マニュアル作成

アイヌの伝統的な生活文化の保存・伝承を図るため、受け継がれてきた伝統を踏まえつつ、自由な発想でアイヌ文化の多様性を表現している人を対象とした「アイヌ文化伝承活動アーカイブス」を作成し、広く人々の利用に供して、製作技術などの保存・伝承を図った。

##### (7) 成果品

種 別	作成時期	作成数	主な配布先
アイヌ文化伝承活動アーカイブス Vol. 10 (飯田米子、高野繁廣、吉田信男)	3 月	1,000 部	博物館、図書館、各アイヌ協会、 アイヌ関係団体など

##### (イ) 企画委員

役職名	氏 名	摘 要
委員長	山崎 幸治	北海道大学アイヌ・先住民研究センター長
委 員	貝澤 和明	公益社団法人北海道アイヌ協会事務局長
委 員	城石 梨奈	釧路市立博物館学芸員
委 員	堀 悦子	アイヌ工芸家
委 員	山本みい子	アイヌ工芸家
委 員	若園雄志郎	宇都宮大学地域デザイン科学部准教授

##### (ウ) 企画委員会

開催日	開催場所	協議事項
1 月 8 日 (木)	財団会議室	・アーカイブス Vol. 10 映像の試写及び修正点検討 ・アーカイブス Vol. 11 出演者検討

##### ②実践上級講座

##### (7) 口承文芸伝承者（語り部）育成

ユカラ（英雄叙事詩）、カムイユカラ（神々の物語）、ウエペケレ（昔話）などの口承文芸の伝統を継承するため、伝承者が継承者へ「語り」を直接指導するなどして、新たな語り部の育成を図った。

開催地区	伝承者	継承者数	開催期間	開催回数
札 幌	多原 良子	5 名	7 月 7 日 (月) ～ 12 月 8 日 (月)	15 回
白 老	山田 美郷	5 名	6 月 3 日 (火) ～ 2 月 21 日 (土)	15 回
平 取	貝澤ユリ子	5 名	6 月 3 日 (火) ～ 11 月 21 日 (金)	15 回
むかわ	竹中千鶴子	5 名	5 月 22 日 (木) ～ 10 月 9 日 (木)	15 回

##### (イ) 伝統文化（木彫・刺繍等）指導者育成

アイヌの人々が多く居住する北海道や関東地区において、アイヌの民族舞踊や刺繍、木彫などの講座を開設し、アイヌ文化を担う指導者の育成を図った。

開催地区	講座種別	講 師	受講者数	開催期間	開催回数
東 京	刺繍	宇梶 良子	12 名	4 月 27 日 (日) ～ 3 月 15 日 (日)	12 回
	木彫	磯里 博己	6 名	6 月 1 日 (日) ～ 3 月 1 日 (日)	9 回
	音楽	千葉 伸彦	9 名	6 月 1 日 (日) ～ 3 月 1 日 (日)	9 回

開催地区	講座種別	講 師	受講者数	開催期間	開催回数
阿 寒	編物	堀 悦子	6名	11月11日(火)～2月8日(日)	12回
旭 川	編物	堀 悦子	6名	7月19日(土)～11月3日(月)	12回
浦 幌	舞踊	斎藤 幸生	9名	6月17日(火)～7月10日(木)	12回
長万部	刺繍	桑原 由恵	7名	6月17日(火)～12月4日(木)	12回
釧 路	刺繍	桃井 芳子	12名	11月6日(木)～12月3日(水)	12回
札 幌	刺繍	石井 美香	13名	6月23日(月)～8月18日(月)	12回
札 幌	編物	佐々木洋子	13名	6月28日(土)～11月1日(土)	12回
札 幌	刺繍	藤岡 良子	15名	6月3日(火)～12月8日(月)	12回
札 幌	音楽	早坂 雅賀	12名	6月29日(日)～12月7日(日)	12回
標 津	刺繍	西山美紀子	11名	6月21日(土)～10月18日(土)	12回
白 老	刺繍	岡田 育子	15名	7月14日(月)～11月17日(月)	12回
伊 達	音楽	飯島 光子	11名	10月1日(水)～11月6日(木)	12回
千 歳	木彫	久保田明秀	5名	8月23日(土)～12月20日(土)	12回
千 歳	編物	貝澤 珠美	4名	9月22日(月)～10月13日(月)	12回
千 歳	音楽・舞踊	山田 良子	9名	5月21日(水)～7月30日(水)	8回
鶴 居	木彫	八重 清敏	8名	9月1日(月)～9月28日(日)	12回
洞爺湖	木彫	小川 俊和	7名	7月12日(土)～9月28日(日)	12回
新冠	刺繍	堀 悦子	13名	6月6日(金)～8月2日(土)	12回
平 取	刺繍	貝澤美和子	11名	6月2日(月)～1月19日(月)	12回
幕 別	木彫	廣川 昌嘉	13名	5月24日(土)～7月27日(日)	12回
むかわ	刺繍	新田 増美	12名	6月1日(日)～11月16日(日)	12回
芽 室	編物	山本みい子	9名	6月1日(日)～1月18日(日)	12回
八 雲	舞踊	山田 良子	10名	5月24日(土)～2月15日(日)	10回
八 雲	刺繍	三原久美子	10名	6月13日(金)～1月23日(金)	12回
財 団	儀式	菅原 勝吉	7名	10月18日(土)～12月7日(日)	10回

### ③伝統工芸複製助成

アイヌの伝統的な工芸技術などを伝承するため、複製品製作を行う個人や団体に対して経費の一部を助成し、その伝承意欲や知識、技術の向上を図った。

(単位：千円)

予算額		申請実績		交付実績	
件数	金額	件数	金額	件数	金額
19	9,900	35	10,138	26	7,445

### ④風俗慣習に関する伝承事業

アイヌ文化振興の一環として、文化継承者として次世代を担う人たちが、豊富な経験や知識を有するエカシ、フチからアイヌの風俗や慣習について継承する取組に要する経費の一部を助成し、アイヌ文化伝承活動の促進を図った。

(単位：千円)

予算額		申請実績		交付実績	
件数	金額	件数	金額	件数	金額
4	1,000	3	439	3	418

## 2 アイヌ文化交流事業

### ①アイヌ文化交流事業

#### (7) 国内文化交流助成

アイヌ文化の伝承者などを招聘し、アイヌ語や民族舞踊、木彫などを学習・鑑賞・体験しようとする事業に対して経費の一部を助成し、アイヌ文化の理解の促進を図った。

(単位：千円)

区 分	予算額		申請実績		交付実績	
	件 数	金 額	件 数	金 額	件 数	金 額
道内実施	33	33,900	82	64,045	81	55,431
道外実施	12	18,000	3	3,008	3	2,550
合 計	45	51,900	85	67,053	84	57,981

#### (4) 国際文化交流助成

アイヌ文化活動に携わる個人又は団体が、海外先住民族などとの交流を通して、その文化の伝承・保存活動などを学ぶとともに、自らの文化を紹介するため、海外への派遣や海外から招聘する国際事業に対して経費の一部を助成し、アイヌ文化の振興と普及啓発を図った。

##### (a) 派遣事業

アイヌ文化活動に携わる個人又は団体が、海外で文化交流活動を行う事業

##### (b) 招聘事業

アイヌ文化の活動に関するセミナーなどを国内で開催する際に、海外から講師などを招聘する事業

(単位：千円)

区 分	予算額		申請実績		交付実績	
	件 数	金 額	件 数	金 額	件 数	金 額
派遣事業	3	2,800	2	930	1	534
招聘事業	2	800	3	2,764	1	550
合 計	5	3,600	5	3,694	2	1,084

### ②青少年国際文化交流研修事業

アイヌ文化の伝承・保存に関心を持つ青少年について、海外の少数民族や先住民族と交流する場を設け、海外における文化伝承・保存活動の先進事例を学ぶことにより、将来のアイヌ文化の担い手としての自覚を喚起し、もって若年層のアイヌ文化伝承・保存活動への意欲向上を図るとともに伝承基盤の強化を図った。

#### (7) 募集期間

一次募集 6月 2日(月)～ 7月 4日(金)

二次募集 7月 28日(月)～ 8月 8日(金)

#### (4) 応募者数

9名

#### (5) 事前研修

研修生 5名 事務局 3名 事業運営委員 2名

実施日	場 所
11月 8日(土)～ 11月 9日(日)	TKP 札幌ホワイトビルカンファレンスセンター、 アイヌ文化交流センター(サッポロピリカコタン)

#### (1) 海外研修

研修生 5名 事務局 2名 事業運営委員 1名 協力者 1名

実施日	実施地域
12月2日(火)～12月6日(土)	台湾(台北、台中)

**(オ) 事後研修**

研修生5名 事務局4名 事業運営委員8名

実施日	場 所
1月17日(土)	ウポポイ(民族共生象徴空間)

**3 アイヌ文化普及事業**

**①伝統工芸展示・公開助成**

アイヌの伝統的な工芸技術などを伝承するため、優れた工芸品の展示・公開を行う個人や団体に対して、経費の一部を助成し、伝承意欲や知識、技術の向上を図った。

(単位：千円)

予算額		申請実績		交付実績	
件数	金額	件数	金額	件数	金額
4	2,000	10	4,939	7	3,134

**②アドバイザー派遣**

アイヌの伝統や文化についての理解を深め、技術を学ぼうとする文化団体や学校などからの要請に応じて、専門的な知識や技術等を有する人をアドバイザーとして派遣するとともに、各種学校向けにアイヌ文化体験講座をメニュー化した「学校向け(パッケージ)派遣」を設け、アイヌ文化の振興を図った。

(ア) 委 嘱 260名

(イ) 派遣実績 418件 延 754名 (学校派遣：小学校 204件、中学校 27件、高校 55件)

(ウ) 公開講座 12件 延 12名

**③工芸品展**

アイヌの伝統的な工芸技術を用いて製作されたアイヌ民族衣装、生活用具、儀礼用具、民芸品等を広く一般に公開するため、「アイヌ工芸品展」を開催し、アイヌ文化に関する知識の普及啓発及び伝承意欲の向上等の促進を図った。

**(ア) 企画委員**

**(a) 企画委員**

役職名	氏 名	摘 要
委員長	五十嵐聡美	元北海道立近代美術館学芸部長
委 員	北原モコットウナシ	北海道大学アイヌ・先住民研究センター教授
委 員	齊藤千鶴子	北海道立釧路芸術館学芸主幹
委 員	齋藤 玲子	国立民族学博物館学術資源研究開発センター准教授
委 員	佐々木利和	北海道博物館アイヌ民族文化研究センター長
委 員	田中真希代	京都府京都文化博物館学芸員
委 員	中井 貴規	民族共生象徴空間運営本部伝承課課長補佐
委 員	橋本 章	京都府京都文化博物館学芸課長
委 員	松浦 葵	北海道立釧路芸術館学芸員
委 員	山崎 幸治	北海道大学アイヌ・先住民研究センター長
委 員	山丸 賢雄	民族共生象徴空間運営本部伝承課主事

**(b) 企画委員会**

開催日	開催場所	協議事項
6月20日(金)	財団会議室	<ul style="list-style-type: none"> <li>・企画案及び展示構成について</li> <li>・出品資料の選定</li> <li>・展示及び図録構成</li> <li>・関連事業について</li> <li>・今後のスケジュールについて</li> </ul>

## (イ) 展覧会

### (a) 名称

「アイヌの美—彩りと輝き—」

### (b) 出品協力先等

旭川市博物館、京都国立博物館、国立アイヌ民族博物館、国立民族学博物館、日本民藝館、北海道立北方民族博物館、北海道大学北方生物圏フィールド科学センター植物園、個人

### (c) 道内会場

- ・会 期 11月1日(土)～12月14日(日)
- ・会 場 北海道立釧路芸術館(釧路市)
- ・来場者数 2,105名

関連事業	内容等
連続セミナー	開催日 11月1日(土) 講 師 山崎 幸治(北海道大学アイヌ・先住民研究センター長) 「アイヌ民具にみる彩りと輝き」 北原モコットウナシ (北海道大学アイヌ・先住民研究センター教授) 「アイヌ語の中の彩りと輝き」 参加者数 35名
アーティストトーク	開催日 11月1日(土) 講 師 下倉 洋之(金工家) 藤戸 康平(アーティスト) 参加者数 35名
オルシペ スウォブ (アイヌのお話アニメ)上映会	開催日 11月3日(月・祝) 参加者数 4名
アイヌ文様刺繍 ワークショップ	開催日 11月4日(火) 講 師 桃井 芳子 伊藤 夕美 参加者数 16名
アイヌ語カルタで遊ぼう トゥレップンとイランカラプテ!	開催日 ①11月15日(土) ②11月16日(日) 参加者数 ①17名 ②16名
キュレータートーク	開催日 11月15日(土) 講 師 五十嵐聡美(本展企画委員長) 参加者数 30名
アーティストトーク	開催日 ①11月16日(日) ②11月30日(日) ③12月13日(土) 講 師 ①貝澤 徹(木彫家) ②藤戸 康平(アーティスト) ③下倉 洋之(金工家) 聞き手 五十嵐聡美(本展企画委員長) 参加者数 ①32名 ②25名 ③30名

### (d) 道外会場

- ・会 期 1月31日(土)～3月19日(木)
- ・会 場 京都府京都文化博物館(京都府京都市)
- ・来場者数 16,394名

関連事業	内容等
講演会	開催日 2月28日(土) 講師 佐々木利和(北海道博物館アイヌ民族文化研究センター長) 「みやこびとのイメージした「蝦夷」と描かれたアイヌ文化」 参加者数 121名
アーティストトーク	開催日 ①3月1日(日) ②3月8日(日) 講師 ①藤戸 康平(アーティスト) ②下倉 洋之(金工家) 貝澤 徹(木彫家) 聞き手 五十嵐聡美(本展企画委員長) 参加者数 ①70名 ②110名

#### (ウ) 常設展示

アイヌ文化交流センター内展示スペース、新函館北斗駅等に衣服、木工芸品等を展示

#### (I) 現代アイヌ工芸品の展示

##### (a) ギャラリー展示

- ・名称 「イターそれぞれのかたち」
- ・会期 1月8日(木)～2月24日(火)
- ・会場 札幌グランドホテル
- ・来場者数 734名

##### (b) ロビー展示

- ・会場 北海道庁本庁舎1階、胆振総合振興局、東京都人権プラザ

#### (オ) 工芸品の貸出

所蔵資料20件、所蔵写真6件、学習トランク27件

### ④文化フェスティバル

北海道及び北海道外において、広く一般の人々を対象に、民族舞踊をはじめとするアイヌ文化を総合的に紹介するアイヌ文化フェスティバルを開催し、アイヌ民族やアイヌ文化への国民的な理解の促進を図った。

開催日・開催地	内容	来場者数
8月30日(土) 千葉県千葉市 千葉市民会館	◇基調講演 池田 忍(千葉大学人文科学研究院名誉教授) 「問いかけるアイヌ・アート：歴史と伝統、個の表現に注目して」 ◇口承文芸 原田 啓介 ◇特別公演 OKI & MAREWREW ◇古式舞踊 白老民族芸能保存会 ◇木彫実演 西山 涼 ◇刺繍実演 山本みい子 ◇ワークショップ (レジンアクセサリー制作) 新谷由美子 (アイヌ文様切り絵) 委託業者 ◇アイヌ文化紹介パネル展示 ◇ウポポイPR	462名
10月4日(土) 兵庫県神戸市 神戸文化ホール	◇基調講演 篠田 謙一(国立科学博物館館長) 「DNAが教える私たちの成り立ち」 ◇口承文芸 飯塚 潔子 ◇特別公演 シアンヌ ◇古式舞踊 様似民族文化保存会 ◇木彫実演 居橋 朗 ◇刺繍実演 藤戸ひろ子 ◇ワークショップ	431名

開催日・開催地	内 容	来場者数
	(レジンアクセサリー制作) 新谷由美子、藤岡千代美 (アイヌ文様切り絵) 委託業者 ◇アイヌ文化紹介パネル展示 ◇ウポポイ PR	
11月24日(月祝) 北海道苫小牧市 苫小牧市民会館	◇基調講演 中川 裕(千葉大学名誉教授) 「今を翔けるアイヌ語ーアイヌ語の現在と未来」 ◇口承文芸 北澤 たみ ◇特別公演 OKI & MAREWREW ◇古式舞踊 PARARU ◇ワークショップ (レジンアクセサリー制作) 新谷由美子、岡田牧子 (アイヌ文様切り絵) 委託業者 (アイヌ料理試食体験) 苫小牧アイヌ協会 (ムックリ演奏体験) 苫小牧うぼぼ ◇アイヌ文化紹介パネル展示 ◇ウポポイ PR ◇アイヌ伝統工芸品展示 苫小牧うぼぼ	762名

#### 4 アイヌ文化活動表彰事業

##### ①工芸作品コンテスト

アイヌの伝統的な技術による工芸作品やその技術を活用した現代的創作作品のコンテストを開催し、優秀な作品を表彰して製作技術の向上と芸術創作活動を促進するとともに、応募作品を展示し、アイヌ工芸作品を鑑賞する機会を提供した。

##### (7) 審査委員

役職名	氏 名	摘 要
委員長	八重 清敏	優秀工芸師
副委員長	貝澤 和明	公益社団法人北海道アイヌ協会事務局長
委 員	印南 小冬	北海道立総合研究機構産業技術環境研究本部工業試験場ヒューマンテクノロジー一部デザイングループ主査
委 員	岡田 育子	優秀工芸師
委 員	菅原 慶郎	東京理科大学長万部キャンパス教育部講師
委 員	藤谷るみ子	伝統工芸家
委 員	若園雄志郎	宇都宮大学地域デザイン科学部准教授

##### (4) 審査委員会

開催日	開催場所	審査対象	協議事項等
7月30日(水)	かでの2・7	139点	・委員長の互選 ・一次審査及び二次審査 ・受賞作品決定

##### (7) 表彰式・展示

区 分	開催日又は期間	開催場所	来場者数
表彰式	8月4日(月)	かでの2・7	763名
展 示	7月31日(木)～8月4日(月)		
巡回展示	9月4日(木)～9月9日(火)	帯広市民ギャラリー	345名
巡回展示	10月7日(火)～10月13日(月)	アイヌ文化交流センター	396名

**(I) 受賞者**

賞区分	受賞者	所在地	部門	作品名
優秀賞	荒木 礼美	神奈川県	刺繍	ハレの日の着物
	石谷真希子	白老町	刺繍	チカラカラペ / 木綿衣
	山下 一美	札幌市	刺繍	蒼のアミブ
入 選	居橋 朗	札幌市	木工	マキリ / 小刀
	貝澤すみれ	平取町	刺繍	チカルカルペ
	藤井 光	七飯町	刺繍	チカラカラペ
奨励賞	川上ききょう	平取町	一般	ショルダーバッグ
	川奈野るみ子	札幌市	一般	タペストリー
	佐々木英子	札幌市	一般	アイヌ模様編み込みセーター
	田仲喜美江	洞爺湖町	刺繍	着物
	中村 綾	平取町	一般	ポン ポン アットウシ/小さな小さなアットウシ
	二色 美重	標茶町	刺繍	マタンプシ / 鉢巻き
	長谷川順子	苫小牧市	一般	タペストリー
	藤井 光	七飯町	一般	チカラカラペ (1/4 スケール)
	辺泥 敏弘	阿寒町	木工	曾祖父の遺品・杖の文様を背中に入れたトンコリ
山崎 真奈	白老町	一般	サラニブ	

**②アイヌ文化賞**

永年にわたってアイヌ文化の向上、発展に努め、特に功績のあった人に、アイヌ文化賞、アイヌ文化奨励賞を贈呈して、その功績を顕彰するとともに、アイヌ文化の継承・振興に関わる諸活動を奨励・促進した。

**(7) 被表彰者推薦期間**

6月9日(月)～7月25日(金)

**(4) 選考委員**

役職名	氏 名	摘 要
委員長	宇治 義之	公益社団法人北海道アイヌ協会常務理事
副委員長	山崎 幸治	北海道大学アイヌ・先住民研究センター長
委 員	手塚 薫	北海学園大学教授
委 員	中村 吉雄	公益社団法人北海道アイヌ協会理事
委 員	芳賀美津枝	登別アイヌ協会会員
委 員	藤岡 良子	札幌ウポが保存会会長

**(5) 選考委員会**

開催日	開催場所	協議事項等
8月26日(火)	財団会議室	・委員長の互選 ・アイヌ文化賞及びアイヌ文化奨励賞の選考

**(I) 贈呈式**

開催日	開催場所	備 考
11月24日(月祝)	苫小牧市民会館	文化フェスティバルと同時開催

**(4) 受賞者**

賞区分	受賞者	年齢	所在地	備 考
文 化 賞	酒井奈々子	73	帯広市	

賞区分	受賞者	年齢	所在地	備考
文化奨励賞（個人）	荒木ハル子	80	札幌町	
	磯部恵津子	76	白糠町	
	千家 盛雄	85	釧路市	
	藤原まさ子	77	新冠町	
	門馬 節子	71	釧路市	
	山本みい子	71	幕別町	
文化奨励賞（団体）	千歳アイヌ文化伝承保存会	—	—	

#### IV アイヌの伝統等に関する普及啓発

##### 1 普及啓発促進事業

###### ①広報情報発信

###### (ア) リーフレット等発行

アイヌの歴史や文化を紹介したパンフレットなどの広報資料を発行し、アイヌの歴史や文化について広く一般の人々の理解の促進を図った。

種 別	言語種別	作成時期	作成数	主な配布先
総合版「令和7年度アイヌ民族文化財団のあらまし」	日本語版	8月	2,000冊	図書館、博物館、アイヌ関係団体のほか、主催事業への来場者など
	英語版	8月	1,000冊	
文化情報版「アイヌ民族～歴史と文化」	日本語版	8月	10,000冊	
	英語版	8月	3,000冊	

###### (イ) ホームページ

インターネット上でアイヌ文化などに関する様々な情報を国内外に発信し、その普及啓発を図った。外国人のために英文のページも開設した。

###### (a) アクセス数

145,444件（3月31日現在）

###### (b) 追加掲載

動画掲載『アイヌ文化伝承活動アーカイブス 技Vol.9』

動画及び解説書掲載『アイヌ生活文化再現マニュアル 海の幸の料理 白糠地方』

幼児向け絵本『ちりましほのイタクラマツ』（令和6年度最優秀賞受賞作品）

###### ②児童生徒向け副教材の作成・配布

アイヌの歴史や文化についての児童・生徒の理解を深めるため、学校教育の場で使用される副教材を作成し、全国の小中学校へ配布してアイヌの歴史や文化などについての知識の普及啓発を図った。

###### (ア) 副教材の作成・配布

種 別	作成時期	作成数	配布先
小学生用	6月	65,000冊	全国の公立小中学校（道内小学校4学年児童および中学校2学年生徒の全員）、都道府県教育委員会、市町村教育委員会、図書館
中学生用		57,000冊	
教師用指導書		35,200冊	

###### (イ) 講習会

開催日	開催地	講 師	事例発表者	受講者数
7月31日（木）	札幌市	中原 直彦	—	20名
8月5日（火）	札幌市	佐々木博司	—	21名
8月21日（木）	東京都台東区	佐々木博司	—	40名

開催日	開催地	講師	事例発表者	受講者数
8月22日(金)	東京都台東区	中原 直彦	—	31名
1月7日(水)	滝川市	山田 良子	中原 直彦、鹿糠 昌弘	22名

### (ウ) 新たな副教材作成検討委員会

検討委員会において新たな副教材のあり方や内容について検討した。

#### (a) 検討委員

役職名	氏名	摘要
委員長	佐々木利和	北海道博物館アイヌ民族文化研究センター長
副委員長	加藤 忠	前公益社団法人北海道アイヌ協会理事長
委員	石田 勝也	札幌市立大学デザイン学部講師
委員	貝澤 守	二風谷民芸組合代表理事
委員	鹿糠 昌弘	滝川市立江陵中学校教頭
委員	北原モコットウナン	北海道大学アイヌ・先住民研究センター教授
委員	佐々木史郎	国立アイヌ民族博物館名誉館長
委員	千葉 拓士	札幌市立新札幌わかば小学校教諭
委員	中川 裕	千葉大学名誉教授
委員	中村 吉雄	公益社団法人北海道アイヌ協会理事
委員	松本あづさ	藤女子大学文学部文化総合学科准教授
委員	山本 命	松浦武四郎記念館長

#### (b) 協力員

氏名	摘要
田村 将人	文化庁企画調整課アイヌ文化振興調査官
関口 由彦	国立アイヌ民族博物館展示企画室長
深澤 美香	国立アイヌ民族博物館教育普及室研究員

#### (c) 作業部会

役職名	氏名	摘要
部会長	北原モコットウナン	北海道大学アイヌ・先住民研究センター教授
副部会長	谷本 晃久	北海道大学大学院文学研究院教授
構成員	鹿糠 昌弘	滝川市立江陵中学校教頭
構成員	城石 梨奈	釧路市立博物館学芸員
構成員	瀧口 夕美	編集者
構成員	千葉 拓士	札幌市立新札幌わかば小学校教諭

### ③親と子のための普及啓発

アイヌの伝統などを内容とした幼児向け絵本の原作を募集し、優れた作品を絵本にして北海道内の保育園などに配布することにより、アイヌ文化についての普及啓発を図った。

#### (7) 募集期間

6月2日(月)～8月29日(金)

#### (イ) 応募点数

10点

#### (ウ) 選考委員

役職名	氏名	摘要
委員長	秋山 里架	民族共生象徴空間運営本部伝承課課長補佐

役職名	氏名	摘要
委員	下倉 絵美	アイヌ語指導者育成事業第12期修了生
委員	高木 真美	釧路短期大学専任講師
委員	吉本 裕子	横浜市立大学客員研究員
委員	渡邊江吏子	札幌市立かっこう幼稚園園長

#### (I) 選考

##### (a) 一次審査（在宅審査）

実施時期	審査対象	摘要
9月18日(木)～10月2日(木)	9作品	審査委員に出品作品(写)を送付し在宅審査を行う

##### (b) 二次審査（選考委員会）

開催時期	開催場所	協議事項等
10月27日(月)	財団会議室	・委員長互選 ・対象作品の審査及び受賞作品の選考

#### (II) 受賞作品

種類	氏名	作品名
最優秀賞	森 亨	キツネのチャランケ
入 選	高橋つくし	ふくろうとねずみ
奨励賞	月 日 貝	シャチの神様のおはなし
	椎谷 朋郁	ポイヤウンペ ルロアイカムイとのたたかい
	古川 元章	コロポックルのピクニック

#### (III) 絵本の刊行

タイトル	作成時期	作成数	主な配布先
キツネのチャランケ	2月	4,500冊	全国の図書館、道内の小学校、幼稚園、保育所等

### ④セミナー

アイヌの伝統などについての基礎的な知識を有する方や学校教育・社会教育関係者などを対象に、アイヌの歴史や文化をテーマとする高度な内容のセミナーを開催した。

#### (7) 札幌会場

- ・開催期間 7月29日(火)～8月5日(火)
- ・開催会場 北海道立道民活動センターかでの2・7

日時	講座名	講師	受講者数
7月29日(火) 13:30～15:00	アイヌ民族の伝統的狩猟文化の復元と復活:北海道沙流郡平取町の試み	田口 洋美 東北芸術工科大学名誉教授	27名
7月29日(火) 15:20～16:50	アイヌ語教育の再考	イヤス シリヤ 北海道大学大学院文学院人文 学専攻言語学講座大学院生	26名
7月30日(水) 13:30～15:00	アイヌ文化における森とのかかわりについて～北海道の森を取り戻す活動を通して～	貝澤 太一 NPO法人ナショナルトラストチ コロナイ理事長	25名
7月30日(水) 15:20～16:50	首都圏におけるアイヌ文化伝承活動	石川美香穂 親と子のアイヌ語学習講座(東 京地区)講師	17名
7月31日(木) 13:30～15:00	二風谷に惹き込まれて	山田裕一郎 映像作家	24名

日 時	講 座 名	講 師	受講者数
7月31日(木) 15:20～16:50	イオマンテとポンクアイ ～ 狩猟の伝 統をどう教えるか ～	中原 直彦 アイヌ文化活動アドバイザー	20名
8月 1日(金) 13:30～15:00	次世代へのアイヌ文化伝承、先祖からの 宝もの	山田 良子 アイヌ文化活動アドバイザー	27名
8月 1日(金) 15:20～16:50	アイヌの人びとの生活世界：エスニシテ ィとジェンダーの交差性	佐々木千夏 旭川市立大学短期大学部幼児 教育学科教授	27名
8月 4日(月) 18:30～20:00	北方民族と家畜との関り	中田 篤 北海道立北方民族博物館学芸 員	17名
8月 5日(火) 18:30～20:00	アイヌ民族の歴史・文化理解を深めるに あたっての基礎知識	佐々木博司 アイヌ文化活動アドバイザー	21名

#### (イ) 東京会場

- ・開催期間 8月19日(火)～8月27日(水)
- ・開催会場 アイヌ文化交流センター

日 時	講 座 名	講 師	受講者数
8月19日(火) 13:30～15:00	アイヌの人びとの生活世界：エスニシテ ィとジェンダーの交差性	佐々木千夏 旭川市立大学短期大学部幼児 教育学科教授	33名
8月19日(火) 15:20～16:50	北方民族と家畜との関り	中田 篤 北海道立北方民族博物館学芸 員	26名
8月20日(水) 13:30～15:00	首都圏におけるアイヌ文化伝承活動	石川美香穂 親と子のアイヌ語学習講座(東 京地区) 講師	28名
8月20日(水) 15:20～16:50	アイヌ民族の伝統的狩猟文化の復元と 復活：北海道沙流郡平取町の試み	田口 洋美 東北芸術工科大学名誉教授	28名
8月21日(木) 13:30～15:00	アイヌ民族の歴史・文化理解を深めるに あたっての基礎知識	佐々木博司 アイヌ文化活動アドバイザー	40名
8月21日(木) 15:20～16:50	二風谷に惹き込まれて	山田裕一郎 映像作家	28名
8月22日(金) 13:30～15:00	イオマンテとポンクアイ ～ 狩猟の伝 統をどう教えるか ～	中原 直彦 アイヌ文化活動アドバイザー	31名
8月22日(金) 15:20～16:50	アイヌ語教育の再考	イヤス シリヤ 北海道大学大学院文学院人文 学専攻言語学講座大学院生	26名
8月26日(火) 18:30～20:00	アイヌ文化における森とのかかわりに ついて～北海道の森を取り戻す活動を 通して～	貝澤 太一 NPO法人ナショナルトラストチ コロナイ理事長	26名
8月27日(水) 18:30～20:00	次世代へのアイヌ文化伝承、先祖からの 宝もの	山田 良子 アイヌ文化活動アドバイザー	18名

#### (ウ) オンライン配信

- ・配信期間 11月4日(水)～11月28日(金)

講 座 名	講 師	受講者数
首都圏におけるアイヌ文化伝承活動	石川美香穂 親と子のアイヌ語学習講座(東京地区) 講師	84名

講座名	講師	受講者数
アイヌ語教育の再考	イヤス シリヤ 北海道大学大学院文学院人文学専攻言語学講座 大学院生	79名
アイヌ文化における森とのかかわりについて～北海道の森を取り戻す活動を通して～	貝澤 太一 NPO 法人ナショナルトラストチコロナイ理事長	66名
アイヌの人びとの生活世界：エスニシティとジェンダーの交差性	佐々木千夏 旭川市立大学短期大学部幼児教育学科教授	67名
アイヌ民族の歴史・文化理解を深めるにあたっての基礎知識	佐々木博司 アイヌ文化活動アドバイザー	106名
アイヌ民族の伝統的狩猟文化の復元と復活：北海道沙流郡平取町の試み	田口 洋美 東北芸術工科大学名誉教授	103名
北方民族と家畜との関り	中田 篤 北海道立北方民族博物館学芸員	63名
イオマンテとポンクアイ ～ 狩猟の伝統をどう教えるか ～	中原 直彦 アイヌ文化活動アドバイザー	74名
二風谷に惹き込まれて	山田裕一郎 映像作家	66名
次世代へのアイヌ文化伝承、先祖からの宝もの	山田 良子 アイヌ文化活動アドバイザー	52名

## ⑤講演会

広く国民一般を対象に、全国各地でその地域の社会的状況を考慮しながら、アイヌの歴史や文化をテーマとした基礎的な内容の講演会を開催し、その知識の普及啓発を図った。

開催日・開催地	演題	講師	来場者数
8月30日(土) 千葉県千葉市	問いかけるアイヌ・アート：歴史と伝統、個の表現に注目して	池田 忍 千葉大学名誉教授	462名
10月4日(日) 兵庫県神戸市	DNAが教える私たちの成り立ち	篠田 謙一 国立科学博物館長	431名
11月24日(月祝) 北海道苫小牧市	今を翔けるアイヌ語ーアイヌ語の現在と未来	中川 裕 千葉大学名誉教授	762名

## ⑥イランカラプテキャンペーン

アイヌ語の挨拶の言葉である「イランカラプテ」をアイヌ文化の情報発信や理解促進のキーワードとして、アイヌ文化等への親近感や共感を高めるための取組を実施した。

### (7) キャンペーンの展開

広く一般の人々を対象に、アイヌ文化を総合的に紹介するイベント「Ainu, Discover, Life～イランカラプテ！アイヌ文化から見つける新しい暮らし～」を開催し、アイヌ文化の普及啓発を図った。

開催日・開催地	内容	来場者数
1月13日(火) Niterra 日本特殊陶業市民会館 ビレッジホール (愛知県名古屋市)	[ステージプログラム] ◇トークセッション 貝澤 雪子、関根 真紀 辻本 達規、本田 剛文 ◇口承文芸 高橋ひとみ、五十嵐いおり ◇舞踊パフォーマンス PARARU [ロビープログラム] ◇木彫体験 西山 涼	418名

開催日・開催地	内 容	来場者数
	◇刺繍体験 下倉 絵美 ◇ムックリ演奏体験 郷右近富貴子 ◇アイヌ工芸品展示 ◇着物試着と写真撮影コーナー	

#### (イ) 空港展示（常設）

空港名	一般公開開始日	直近の展示替え	現在の展示品
釧路空港	平成25年12月20日(金)	1月23日(金)	計18点 木綿衣、彫刻作品など
函館空港	平成26年8月27日(水)	令和6年 11月19日(火)	計13点 木綿衣、タマサイ(首飾り)など
帯広空港	平成28年3月24日(木)	9月25日(木)	計16点 木綿衣、マキリ(小刀)など
旭川空港	平成30年12月1日(土)	6月27日(金)	計1点 木綿衣

#### (ウ) 啓発パンフレットの作成・配布

タイトル	作成時期	作成数	主な配布先
ふれてみようアイヌ文化	7月	30,000部	アイヌ関係団体、美術館、博物館、観光協会、道の駅など

#### (エ) 札幌駅におけるアイヌ文化情報発信

JR札幌駅西コンコース北口にある「北海道さっぽろ(食と観光)情報館」内にアイヌ文化情報発信コーナーを設置した。ディスプレイを用いた道内アイヌ関連施設情報の常時上映、アイヌ工芸作品の常設展示、アイヌ関連イベントなどの情報発信を実施した。

施設名	一般公開開始日	直近の展示替え	展示品
札幌駅	令和3年3月1日(月)	1月21日(水)	計3点 アットウシ(樹皮衣)など

## 2 アイヌ文化交流センター事業

首都圏に居住するアイヌの人々の交流活動やアイヌ文化の伝承活動などを支援するとともに、アイヌと一般の人々との交流の場やアイヌ文化などに関する情報収集・発信の場として、多角的な機能をもつアイヌ文化交流センターを運営した。

### ①常設展示の実施

### ②アイヌ関係図書や映像資料の閲覧

種 別	購入数	寄贈数	総 数	備 考
図 書	49冊	37冊	6,265冊	
映 像	0本	6本	532本	DVD(453本)含む

### ③イランカラパテ・アイヌ文化体験講座

開催日	講座種別	講 師	受講者数
5月31日(土)	木彫	平田 篤史	10名
6月7日(土)	木彫	平田 篤史	9名
7月5日(土)	刺繍	丸子美記子	13名
7月19日(土)	刺繍	丸子美記子	8名
8月1日(金)	刺繍	浦川まき子	12名
8月2日(土)	アイヌ語	成瀬 裕子	36名
8月8日(金)	刺繍	浦川まき子	11名
8月11日(月)	舞踊	宇佐恵美/會田明日香	16名
8月16日(土)	舞踊	宇佐恵美/會田明日香	8名
9月15日(月)	アイヌ語	米澤 諒	25名

開催日	講座種別	講師	受講者数
10月9日(木)	刺繍	弓野 恵子	11名
10月11日(土)	刺繍	弓野 恵子	11名
11月22日(土)	刺繍	丸子美記子	10名
11月24日(月)	刺繍	丸子美記子	10名
12月6日(土)	アイヌ語	米澤 諒	18名
12月13日(土)	木彫	平田 篤史	11名
12月20日(土)	木彫	平田 篤史	11名
1月12日(月)	アイヌ語	成瀬 裕子	30名
1月24日(土)	音楽	千葉 伸彦	11名
1月31日(土)	アイヌ語	藤田 護	37名
2月7日(土)	音楽	千葉 伸彦	13名
3月6日(金)	料理	嶋井千代子	7名
3月6日(金)	イナウケ	廣野 洋	6名
3月6日(金)	チセノミ	廣野 洋	27名

#### ④交流センター利用者

利用者数 5,226名 (アイヌ関係者962名、一般4,264名)

電話照会 691件

## V アイヌ文化の伝承者育成

### 1 アイヌ文化の伝承者育成事業

#### 伝承者育成事業

アイヌ文化におけるさまざまな技術や言語等を総合的又は分野別に身につけそれらを伝承する者の育成を図った。

#### ①昼間型

アイヌ文化に関する知識や技術・技能を身につけ、実施地域のニーズを踏まえて策定した伝承者育成プログラムにより、地域のアイヌ文化を根底から支える人材(伝承者)の育成を図った。

区分	事業内容等	開催期間
6期生 3年目	<ul style="list-style-type: none"> <li>・受講者 4名</li> <li>・受講日数 223日</li> <li>・講義及び実習</li> </ul>	4月1日(火)～3月12日(木)

#### ②夜間型

アイヌ文化に関する知識や技術・技能を身につけ、特定分野に関する高度な知識・技術・技能の修得を行い、地域のアイヌ文化を根底から支える人材(伝承者)の育成を図った。

区分	事業内容等	開催期間
アットウン (着物)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・受講者 3名</li> <li>・受講日数 48日</li> <li>・講義及び実習</li> </ul>	4月22日(火)～2月10日(火)
アットウン (反物)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・受講者 4名</li> <li>・受講日数 48日</li> <li>・講義及び実習</li> </ul>	5月14日(水)～3月25日(水)
イタ (盆)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・受講者 4名</li> <li>・受講日数 25日</li> <li>・講義及び実習</li> </ul>	5月14日(水)～11月25日(火)

## 第2 民族共生象徴空間管理事業等

### I 民族共生象徴空間管理事業

#### (公益目的事業2)

##### 1 国立民族共生公園管理事業等

国立民族共生公園は、アイヌの歴史、文化等に関する展示及び調査研究並びにアイヌ文化の伝承、そのための人材育成、体験交流、情報発信及び豊かな自然を活用した憩いの場の提供、その他の取組を通じてアイヌ文化の復興に関する我が国における中核的な役割を担うことを目的としている。

- ・入場者数 令和7年度 288,930人  
(令和6年度 316,398人)

#### ①体験交流プログラムの提供及び伝統芸能の上演

##### (ア) プログラムの運営企画・実施

- ・体験プログラムについては、前年度の実績及び来場者アンケート等を踏まえ、各プログラムの見直しなどを実施した。
- ・ウエカリ チセ（体験交流ホール）、チキサニ ミンタラ（チキサニ広場）及びコタン前広場で伝統的な舞踊、歌、楽器演奏等上演した。
- ・ウエカリ チセ（体験交流ホール）でアニメーション映像「カムイ ユカラ」を上映した。
- ・ヤイハノッカラ チセ（体験学習館）でムックリ演奏、アイヌ料理実食及び調理体験を実施した。
- ・アイヌ語体験プログラム「イタケ トマリ」を多目的ホールにて実施した。
- ・弓矢体験館で、弓矢体験「アクシノツ」を実施した。
- ・ヤイハノッカラ チセ（体験学習館）でバーチャルリアリティ（VR）ゴーグル映像体験「カムイ アイズ」を実施した。
- ・テエタ カネ アン コタン（伝統的コタン）で口承文芸実演、丸木舟操作実演・解説等を実施した。
- ・イカラ ウシ（工房）でアイヌ文様刺繍体験、アイヌ文様木彫体験、ムックリ演奏を実施した。

##### (イ) 園内イベントの運営企画・実施

- ・ファミリー層や道外からの誘客の見込まれるゴールデンウィーク、夏休み、シルバーウィーク、さっぽろ雪まつり期間等において、イベントウィークとして特別プログラムを実施した。
- ・夏季の夜間特別プログラムとして、屋外ステージで歌や踊りを披露する「ポロトコタンの夜」を実施した。
- ・10月に各地域の工芸家やアーティストとともにアイヌアートショーを開催した。
- ・「教育・文化週間」の趣旨等を踏まえ、より多くの方にアイヌ文化を学んでもらうため、文化の日を含む11月1～3日の3日間にわたり、園内無料開放を実施した。
- ・2月に重要無形文化財「歌舞伎女方」各個認定保持者（いわゆる「人間国宝」）である坂東玉三郎丈をウポポイに迎え、歌舞伎とアイヌ文化の新たな交流を目指す「ウケシコロ～紡がれるアイヌ伝統芸能と歌舞伎～」を開催した。
- ・冬イベントとして、2月に世界の先住民族の音楽や映画をテーマとしたイベントを実施した。
- ・冬季に、園内を彩る「ウポポイイルミネーション」を実施した。
- ・白老町と連携し、夏季（8月）及び冬季（2月）に「しらおいスカイランタンフェスティバル」を開催し、1月に「白老町二十歳を祝う会」を開催した。
- ・アイヌ文化の伝承活動等が盛んな地域との連携を深化させるべく、9月から10月にかけて阿寒の展示イベント「伝統ト革新展 04」を実施し、3月に平取の展示イベント「森を生かす、アイヌ文化継承のいま Vol.2～北海道平取町～」を実施した。このほか、7月には三重県松阪市主催による「松浦武四郎 in ウポポイ 2025」の開催に協力した。

##### (ウ) 伝統工芸家等の招へいによる技術の実演

- ・アイヌ文化の伝承活動と理解促進のため、各地域の伝統技術伝承者を招へいし、工房において製

作技術の実演公開を行った。

#### (イ) 保存会による古式舞踊披露

- ・アイヌの伝統及びアイヌ文化の理解促進を図るため、各地域でアイヌ古式舞踊を伝承している保存会を招へいし、ウエカリ チセ（体験交流ホール）で舞踊等を披露及び発信した。
- ・大阪・関西万博において、道内外各地区保存会等約 200 名によるアイヌ舞踊・伝統芸能を披露した。

#### (オ) 体験交流ホールの運営

- ・体験交流ホールにおける映像・音響及び照明機材について、演目の演出に応じた操作を行った。また、機材のメンテナンスを適時に実施した。

### ②来場者に対する園内サービスの充実

- ・ウポポイ園内のカンカン（いざないの回廊）及び舟着き場に、フォトスポットを新設した。
- ・エントランスへ通じるカンカン（いざないの回廊）に、動物を題材としたクイズや路面の足跡ペイントなど、遊びの要素を追加した。
- ・来場者が園内において快適に滞在できるよう、テント、休憩所等を設置した。
- ・エントランス棟インフォメーションにおいて、利用者に対する情報発信の充実を図っている。
- ・ウウエランカラブ ミンタラ（歓迎の広場）に設置したウポポイ解説パネルや案内図により、継続的にアイヌ文化やウポポイに関するイントロダクションの充実に取り組んでいる。
- ・小さな子ども連れの来場者が休憩できる環境を提供するため、エントランス棟及びふれあい館にキッズコーナーを設置した。
- ・多様な文化習慣を持つ来場者に対応するため、ふれあい館に礼拝室を設置した。
- ・テエタ カネ アン コタン（伝統的コタン）において、園内ガイドを実施した。
- ・ウポポイ来園者の園内移動の利便性向上のため、園内を循環するバスを継続して運行した。
- ・白老町への地元連携の一環として、「ふるさと納税自動販売機」の設置場所としてウポポイ園内のエントランスを提供し、白老町のふるさと納税を促進する取組に協力した。

### ③広報活動及び誘客促進

（ウェブサイト・SNS・メディア等を活用した PR）

- ・ウポポイホームページについて、内容の充実及びユーザビリティの向上を図るとともに季節に応じた適時の更新を実施した。また、Instagram・Facebook などの SNS を活用し、ウポポイの見どころやイベント等を適時に発信した。
- ・新聞、雑誌等の出版物におけるウポポイ紹介記事及びテレビ局、ラジオ局が企画する番組への出演協力等を通じ、ウポポイの認知度向上及び PR に努めた。

（園外での PR）

- ・大阪・関西万博において、工芸品展示イベント「イランカラプテアイヌ文化をウポポイからー」を実施。
- ・「北海道庁旧本庁舎（赤れんが庁舎）」のリニューアルオープンに伴い整備された「アイヌ文化と歴史」展示室において、北海道庁の協力のもと「ウポポイ情報発信コーナー」を新たに設置。
- ・国営滝野すずらん丘陵公園、旭山動物園、NEXCO 東日本北海道支社の協力によるパーキングエリア等、各地域において PR を実施した。
- ・エスコンフィールド北海道と連携し、試合開催日において PR ブースを出展した。
- ・TV アニメ「ゴールデンカムイ」とコラボした『ゴールデンカムイと北海道を楽しもう！ supported by ウポポイ』キャンペーンを展開し、全国主要都市でサイネージ広告を掲出。
- ・白老町と連携し、にぎわい感の創出に向け、白老牛肉まつり・ポロトミンタラフェスティバルにおいてウポポイ PR ブースを出展した。

- ・JR札幌駅西コンコース北口・アイヌ文化情報発信コーナー内において、ウポポイ情報発信ブースを継続して設置。

(旅行会社等向けPR)

- ・旅行会社及びメディア向けのPR事業として、9月の「ツーリズムEXPO ジャパン」や11月の「台湾国際旅行博（ITF）」などの旅行関連イベントに出展したほか、韓国や台湾の旅行会社との商談会を実施した。

(団体・教育旅行誘致)

- ・修学旅行需要を取り込むため、従来は次年度1年分を限度としていた予約対象期間を11月より段階的に拡大し、3月末時点では最大26か月先まで予約可能とした。
- ・教育旅行誘致拡大に向け、高校向け冬季探究型教育旅行プログラムの提供、アイヌ関連書籍パッケージ貸出サービス「UPOPOY LIBRARY」を展開した。さらに、1月に、共生社会実現に向けて高校生が民間企業等と共に様々な社会課題の解決に向けて探究するイベント「ウアイヌコロ会議」の第2回を実施した。
- ・教育旅行催行の旅行事業者等に対し、見学可能な施設等をウポポイ側から提案、調整するなど、学校等教育機関の積極的受け入れ及び満足度向上に努めた。

(入場券販売の多様化)

- ・OTA (Online Travel Agency) 連携等によるウェブサイト割引 (200円割引) を開始した。
- ・登別市内の宿泊施設と連携し、同施設によるウポポイ割引券付き宿泊プランの造成・販売を促進した。
- ・14時以降の入場料が半額になる14時入場券の導入、各種事業においてウポポイ200円割引券の配布を実施した。

(園外公演・国際交流)

- ・3月、「ウポポイが東京に出現」をコンセプトに、首都圏在住者に対するアイヌ文化及びウポポイの認知度向上と、ウポポイへの誘客促進を目的として、「UPOPOY FESTA2026」を開催。
- ・国際交流事業として、8月に大阪・関西万博のカナダ・パビリオンで開催された「太平洋・北極の気候と貿易に関する先住民会議 (IMPACT)」に出席した。また、3月に職員が台湾の原住民族文化園区を訪問し、アイヌ舞踊等を披露した。さらに、9月の「平取町・二風谷国際先住民族フォーラム」に参加した海外先住民族の方々に加え、10月にウェールズ政府日本代表部、11月にはカナダの対日理解促進交流プログラムを通じて訪日したファーストネーション等の若手社会人をウポポイに受け入れ、交流会や意見交換会等を実施した。

#### ④来場者の安全と安心の確保

- ・防火・防災等危機管理計画及び防災消防訓練の説明会、地震・津波を想定した防災訓練及び白老消防署の指導による救命講習を実施した。
- ・7月に発生したカムチャツカ半島東方沖を震源とする地震に伴う津波警報を受け、来場者の安全確保を図るため、緊急避難を実施し、職員が適切に誘導を行った。

#### ⑤施設維持管理及び慰霊施設の管理

- ・良好な状態で施設を維持管理していくため、国立民族共生公園、慰霊施設及び管理運営施設の建物・設備管理業務、警備・巡視業務、清掃業務、廃棄物処理業務、除雪業務、利用・案内業務及び植物管理業務を委託した。

### (公益目的事業3)

#### 2 国立アイヌ民族博物館管理事業

国立アイヌ民族博物館は先住民族であるアイヌの尊厳を尊重し、国内外にアイヌの歴史・文化等に関する正しい認識と理解を促進するとともに、新たなアイヌ文化の創造及び発展につなげる活動を行っている。

そのため、展示の企画、調査・研究業務の企画資料調査、教育普及など、博物館の管理運営に必要な以下の業務を文化庁から受託し、実施した。

## ①調査研究・交流

### (7) 調査研究事業の企画・立案

- ・国立アイヌ民族博物館調査研究における基本計画に基づき、調査研究プロジェクト「A 基幹研究及び悉皆調査」（継続4件、新規2件）、「B 個別研究」（新規3件）、「K 共同研究」（継続1件、新規3件）を採択し実施した。
- ・前年度終了済（B）・前年度から継続（A）については館内にてポスター発表を実施した。前年度終了済の研究課題（A）については、報告書を作成した。
- ・研究推進ワーキング会議を8月と2月に計2回実施した。
- ・博物館内自主企画研修を1件3回実施した。
- ・国立アイヌ民族博物館研究紀要第3号の電子版を博物館公式ウェブサイトに掲載し、あわせて印刷版を発行して関係各所に配布した。第4号について、投稿論文の公募を行った（令和8年度に発行予定）。
- ・アイヌ文化伝承者・実践者や外部機関の研究者等を当館にて受け入れることができる「特別研究員」制度を5月に整備した。
- ・前年度から引き続き、「客員研究員」を1名受け入れた。

### (4) 「アイヌ文化でつながる博物館等ネットワーク（愛称プンカラ）」の運営等

- ・プンカラ運営委員会を5月、11月、3月に計3回開催した。また各事業に関する具体的な協議について、検討会をオンラインにて計5回実施した。
- ・新たに8機関より入会申込があり、81会員機関となった（博物館等：79（道内：61、道外：18）、保存会：2）。
- ・会員機関を対象としたアイヌの歴史・文化に関する基礎的知識及びアイヌ民族資料の取扱等に関する研修会を11月に開催した。本研修会では、コミュニケーションを重視したワーキング形式を新たに実施し、計45名が参加した。
- ・これまでの会員機関限定ウェブサイトの運用の見直しを行い、サイトの一部オープン化を3月までに実施した。
- ・会報『プンカラ通信』について、5号（7月）、6号（1月）を発行した。
- ・プンカラ共同研究については事業を見直し（令和7年度のみ公募の一時停止）、専門性に特化した研究以外に教育普及も含めた幅広い研究も申請できるような仕組みを3月までに構築した。なお、昨年度から継続していた重点課題については実施した。
- ・プンカラ協働展示 Punkar×TOKYO2025「アイヌモシリーアイヌの世界と多様な文化ー」を國學院大學博物館にて開催した。会期は6月28日から9月23日で、計19,171名が来館した。関連イベントを4回実施し、計274名が参加した。
- ・プンカラネットワークのオリジナルロゴマーク（小笠原小夜作）を11月に製作した。

### (4) 協定締結機関等との連携事業（シンポジウム、共同調査・研究等）の企画等

- ・ベルリン国立博物館群民族学博物館と学術包括連携協定（MOU）を4月に新たに締結し、7月に当館にて調印式を行った。今後、在ベルリンのアイヌ・コレクションを核とした調査研究プロジェクト等の実施を目指す。
- ・室蘭工業大学との協定書に基づき、以下の連携事業を実施した。
  - ①「胆振学入門」講師1名の派遣（5・6月）
  - ②2025年度海外留学支援制度による留学生のウポポイ受入（6月）
  - ③科研費事務説明会の実施（6月）
  - ④「室蘭工業大学・ウポポイ見学ツアー2025」の実施（6月）
  - ⑤留学生によるウポポイ見学の受入（8月）

⑥共同研究をベースとした科学研究費申請の実施（9月）

⑦「令和7年度蘭岳セミナー」への講師1名派遣（10月）

- ・北海道アイヌ協会との協定書に基づき、技術研修を1名受け入れ、12月から3月まで実施した。
- ・苫小牧市との覚書に基づき、昨年度から継続していた勇払海岸出土の丸木舟の保存処理が3月に終了した。
- ・東京国立博物館との覚書に基づき、第10回特別展「ウィーン万国博覧会とアイヌ・コレクション」に関する調査研究を4月と5月、資料借用を8月に実施した。
- ・石巻市博物館との覚書に基づき、アイヌ・コレクションの悉皆調査を7月と1月に実施した。
- ・第10回特別展「ウィーン万国博覧会とアイヌ・コレクション」関連のシンポジウムを10月に「かでの2・7（札幌）」で開催し、約60名が参加した。
- ・調査研究プロジェクト関連の研究者を対象としたアイヌ語の研究会を11月に当館で開催し、25名が参加した。
- ・当館初の国際シンポジウムとなる「第1回国際先住民族博物館シンポジウム」を令和8年2月7・8日の2日間にわたりウポポイで開催した。アメリカ、オーストラリア、フィンランドの国立博物館・機関から4名、国内の博物館等から4名の計8名を招聘した。来場者は2日間延べ約300名であった。本シンポジウムの報告書については、令和8年度に作成する。
- ・生物を専門とする北海道高等学校教諭で組織された「北海道高等学校理科研究会」による研修会を当館で2月に開催した。当館職員3名が講義をし、10名が参加した。
- ・第10回テーマ展示「ケレヤン、ヌカラヤン、ヌヤン さわる、みる、きく 国立アイヌ民族博物館2」に関連する研究会を「ユニバーサル・ミュージアム研究会」と共催で3月に開催した。参加者は、研究会関係者で構成され、約40名が参加した。

#### (イ) 国内外の博物館、大学、研究機関等との連携強化等

- ・道内外の博物館大会等に以下のように当館職員が参加した。
  - ①日胆地区博物館等連絡協議会総会・研修会が5月に新ひだか町で開催され、1名が参加。
  - ②北海道博物館大会が7月に札幌で開催され、1名が参加。
  - ③全国博物館大会が11月に大阪で開催され、2名が参加。
  - ④北海道博物館協会学芸職員部会総会研修会が苫小牧で11月に開催され、5名が参加。
- ・ICOM国際大会が11月にアラブ首長国連邦（ドバイ）で開催され、当館職員1名が議決委員会メンバーとして参加した。
- ・国際交流事業50件を運営本部（民族共生公園）及び札幌調整室と協働で実施した。カナダ、オーストラリア、台湾、ハワイ、ニュージーランド、フィリピン、ドイツ、北欧、ウェールズなどから先住民研究者や学生、パフォーマーを受け入れた。また米国・ニュージーランド・スウェーデンの国会議員、パラグアイ・ドイツ・オーストラリア・米国の大使や公使などの要人を受け入れた。そのほか、メキシコの大学で開催されたシンポジウムにおいて、運営本部及び博物館のスタッフによるオンライン発表の調整も行った。
- ・ケ・ブランリ博物館（フランス）、バルセロナの民族学・世界文化博物館（スペイン）及びカタルーニャ州政府（スペイン）と、それぞれ共同展示の準備に向けて連携を推進した。バルセロナでの展示は12月にオープンし、カタルーニャ政府との展示は1月から3月にかけて当館で開催した。

#### (ロ) レファレンス業務

- ・利用者からの博物館施設、教育、資料、アイヌの文化・歴史・言語等に関する専門的な内容等に関するお問合せ（レファレンス）について、約180件分を対応した。

#### (ハ) 科学研究費補助金の獲得に向けた体制構築の実施等

- ・令和6年度に研究機関指定を受け、令和7年度は新規応募8件のうち5件（基盤研究B：1件、基盤研究C：4件）が採択された。採択率は62.5%と平均を大きく上回る実績を上げた。令和8年度に向けては新たに3件の応募を行い、1件の採択が決定した。

## ②展示企画

### (7) 基本展示室での常設展示の実施、定期的な資料入替や解説文・キャプションの見直し、多言語対応など展示内容の改善充実

- ・基本展示室の展示資料について、劣化が懸念される染色資料、紙資料を中心に年度内に6回の展示替えを行うとともに、必要なキャプション等の作成と多言語化(英・中・韓)を行った。
- ・基本展示改善計画の重点目標である「博物館のコンセプトを的確に伝えるための展示方法の改善」及び「アイヌ文化に関する時代区分の明確化と理解を促す展示方法の検討」に基づき、以下の対策を検討・実施した。

①新規動画コンテンツ「エネ ヤイヌアシ(私たちの思い)」制作(令和8年3月、公開は4月)

②「私たちの歴史」の展示パネルの追加・更新(令和8年3月)

### (4) 特別展及びテーマ展の実施

- ・下記の特別展示・テーマ展示及びエントランスロビー展を開催した(多言語対応済(英・中・韓))。

種 別	第8回テーマ展示
主 題	「ウイマムレプンカ サンタン交易と蝦夷錦」
主 催	国立アイヌ民族博物館
後 援	公益社団法人北海道アイヌ協会、北海道新聞社
開催協力	市立函館博物館
協 力	厚岸町教育委員会、釧路市中央図書館、釧路市立博物館、国立公文書館、浄心寺、東京国立博物館、東京大学史料編纂所、函館市中央図書館、北海道大学附属図書館、北海道立函館美術館、松前町教育委員会、立教小学校 相原秀起氏、池田留美子氏、小田寛貴氏、中村和之氏
会 場	国立アイヌ民族博物館 特別展示室
期 間	令和7年3月15日(土) ～ 令和7年5月18日(日) 65日間
入場者数	36,030名
観覧料金	無料(ウポポイ入園料のみ)
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・構成：蝦夷錦・サンタン服を中心に、ガラス玉や銭貨など、アイヌ文化にもたらされた中国製品と他の先住民族との交流について紹介した。以下の内容で構成した。             <ol style="list-style-type: none"> <li>①サンタン交易とは？</li> <li>②蝦夷錦を運んだ舟と櫓</li> <li>③色いろな蝦夷錦・サンタン服</li> <li>④ガラス玉と銭貨</li> <li>⑤絵本閲覧コーナー</li> </ol> </li> <li>・展示資料：約90点</li> <li>・関連事業：当館研究員及び学芸員によるギャラリートークなど計10回</li> </ul>

種 別	第10回特別展示
主 題	開館5周年記念「ウィーン万国博覧会とアイヌ・コレクション」
主 催	国立アイヌ民族博物館、北海道新聞社
後 援	公益社団法人北海道アイヌ協会、ドイツ連邦共和国大使館、オーストリア大使館
特別協力	東京国立博物館
協 力	ベルリン国立博物館群民族学博物館、奈良国立博物館、石川県九谷焼美術館、石川県立歴史博物館、北海道立文書館、あま市七宝焼アートヴィレッジ、江別市教育委員会、市立函館博物館、苫小牧市美術博物館、福岡市博物館、一般財団法人伝統的工芸品産業振興協会、一般財団法人西陣織物館、渋沢史料館、北海道大学附属図書

	館、有田ポーセリンパーク、全日本空輸株式会社、中西出版株式会社、ハウステンボス美術館、関口忠相(日本シーボルト協会 会長)
会 場	国立アイヌ民族博物館 特別展示室
期 間	前期：令和7年7月 5日(土) ～ 令和7年 8月 31日(日) 58日間 後期：令和7年9月 13日(土) ～ 令和7年 11月 16日(日) 65日間
入場者数	116,690名(前期：51,700名、後期：64,990名)
観覧料金	無料(ウポポイ入園料のみ)
事業内容	<p>・構 成：約150年ぶりに北海道に戻ってくるドイツ・ベルリンの海外コレクションを展示し、日本にとって近代化と国際化の象徴であるウィーン万博を起点とした、アイヌ・コレクションの形成とその時代背景を紹介した。</p> <p>展示趣旨：ウィーン万国博覧会とアイヌ・コレクション</p> <p>1章 ウィーン万国博覧会</p> <p>2章 ウィーン万国博覧会の系譜 ー日本における博覧会のはじまり</p> <p>3章 ウィーン万国博覧会の前夜 ーアイヌ・コレクションからみる博覧会と博物館</p> <p>4章 ウィーン万国博覧会のあとー北海道の周辺と近代化</p> <p>・展示資料：約250点</p> <p>・関連事業：開会記念講演会、国際シンポジウム、当館研究員及び学芸員によるギャラリートークなど計31回</p>

種 別	第9回テーマ展示
主 題	「収蔵資料展 イコロ <sup>イェエレブ</sup> 3 -」
主 催	国立アイヌ民族博物館
後 援	公益社団法人北海道アイヌ協会
協 力	株式会社文化財保存、公益財団法人元興寺文化財研究所
会 場	国立アイヌ民族博物館 特別展示室
期 間	令和8年1月10日(土) ～ 令和8年2月23日(日) 45日間
入場者数	12,349名
観覧料金	無料(ウポポイ入園料のみ)
事業内容	<p>構 成：近年収集した資料の公開や、資料の修理について紹介します。普段の展示では知ることができない博物館活動の舞台裏の様子から、アイヌ資料を次世代に繋ぐための取組を紹介した。</p> <p>○1章 資料を収集する</p> <p>1-1. 近年買取した資料の照会</p> <p>1-2. 近年寄託を受け入れた資料の紹介</p> <p>○2章 資料を修理する</p> <p>2-1. 蝦夷国風図絵(卷子装)の修理</p> <p>2-2. 蝦夷国風図絵(屏風装)の修理</p> <p>展示点数：45点</p> <p>関連事業：関連講演会、当館研究員及び学芸員による関連イベント計6回</p>

種 別	第10回テーマ展示
主 題	「ケレヤン、ヌカラヤン、ヌヤン さわる、みる、きく 国立アイヌ民族博物館 2」

主催	国立アイヌ民族博物館
後援	公益社団法人北海道アイヌ協会
協力	九州国立博物館、公益財団法人北海道埋蔵文化財センター、公益社団法人北海道ろうあ連盟、社会福祉法人白老宏友会、社会福祉法人苫小牧市社会福祉協議会、社会福祉法人ホープ・フロンティア、白老町教育委員会、特定非営利活動法人NPO ウテカンパ、苫小牧市点訳赤十字奉仕団、苫小牧身体障がい者福祉連合会、南山大学人類学博物館
会場	国立アイヌ民族博物館 特別展示室
期間	令和8年3月14日(土)～令和8年5月17日(日) 65日間
観覧料金	無料(ウポポイ入園料のみ)
事業内容	<p>構成：「誰もが楽しめ、基本展示をより深く理解できる展示」をテーマ展示として開催する。触る、聞くなど五感で感じる展示とし、基本展示で展示している資料と同類の土器、民具などを触れる形で展示するほか、点字や手話など、文字による解説以外の方法での解説も行った。</p> <p>はじめに</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ケレ さわる <ol style="list-style-type: none"> <li>1-1. イミ 着る</li> <li>1-2. イノミ いのる</li> </ol> </li> <li>2. イタク はなす <ol style="list-style-type: none"> <li>2-1. イエ いう</li> <li>2-2. ヌイエ かく</li> </ol> </li> <li>3. ヌ きく <ol style="list-style-type: none"> <li>3-1. モコロ ねる</li> <li>3-2. エ たべる</li> <li>3-3. ウコアプカシ いききする</li> </ol> </li> </ol> <p>おわりに</p> <p>展示点数：約90点  関連事業：外部講師による講演会やワークショップ、当館研究員及び学芸員によるギャラリートークなど計10回</p>

種別	第7回エントランスロビー展示
主題	「カタルーニャの彫刻家エウダル・セラとアイヌの出会い」
主催	カタルーニャ州政府日本事務所、国立アイヌ民族博物館
会場	国立アイヌ民族博物館 1階エントランスロビーケース
期間	令和8年1月20日(火)～令和8年3月29日(日) 69日間
観覧料金	無料(ウポポイ入園料のみ)
事業内容	1947年のエウダル・セラの北海道への訪問、特に白老とその周辺、旭川・近文でのアイヌ民族との出会いや、芸術・収集活動について紹介した。

・海外において下記の展覧会を開催した。

種別	海外展
主題	「aynu」
共催	民族学・世界文化博物館 (Museu Etnològic i de Cultures del Món) 、国立アイヌ民族博物館
会場	Museu Etnològic i de Cultures del Món (スペイン国カタルーニャ州バルセロナ市)

期 間	令和7年12月18日(木) ～ 令和8年6月14日(日) 179日間
観覧料金	無料(ウポポイ入園料のみ)
事業内容	Museu Etnològic i de Cultures del Mónにおけるアイヌ関連資料のコレクションの礎を築いたエウダル・セラの北海道への訪問について焦点を当てるほか、アイヌ民族の言語や歴史、文化、そして世界観を、伝統と現代の両方の視点から紹介した。 ・展示点数：約95点（うち国立アイヌ民族博物館からの貸出数67点） ・関連事業：関連講演会

- ・次年度開催する特別展及びテーマ展について、下記のとおり計画した。
  - 第11回特別展示「アイヌ民族と博覧会－150年の経験－」  
令和8年6月20日(土)～8月23日(日) 65日間  
(国立歴史民俗博物館 令和8年10月6日(火)～11月26日(木) 55日間)
  - 第12回特別展示「コソソテとルウンペ」  
令和8年9月19日(土)～11月23日(月祝) 66日間
  - 第11回テーマ展示「収蔵資料展(仮)」  
令和8年12月12日(土)～令和9年2月14日(日) 65日間
  - 第12回テーマ展示「アイヌ民族と聖公会－バチラー八重子と有賀千代吉(仮)」  
令和9年3月13日(土)～令和9年5月16日(日) 65日間
  - 【海外展】「未定」  
会場：Musée du quai Branly (フランス・パリ)  
日程：令和9年1月26日(火)～令和9年6月27日(日) (予定)

**(ウ) 新たな生活様式に対応した「バーチャル博物館」の配信及びバーチャル博物館を活用した新たな展示・情報発信等に関する企画立案**

- ・バーチャル博物館に関しては、既存コンテンツの修正・更新・維持管理を継続し、年3回にわたり新たな特別展示及びテーマ展示の記録撮影を実施した。
- ・令和6年度テーマ展示「収蔵品展」及び関連する「CT機器紹介」および展示造作の様子を記録した「タイムラプス」映像を公開した。これらの動画について、それぞれ日本語・英語・中国語・韓国語の字幕を追加し、ウェブ上で国立アイヌ民族博物館の展示室を体験できる内容を充実させた。

**(イ) 音声ガイド機の維持・管理及び内容の更新、携帯アプリの配信及び内容の更新**

- ・音声ガイド機については、保守・管理を行い、常に正常かつ良好な稼働状態を維持した。
- ・携帯アプリ（ウポポイ公式音声ガイドアプリ）については、コンテンツの配信、管理を行い、正常かつ良好な稼働状態を維持した。

**(オ) 博物館/ウポポイにおけるアイヌ語による表示・解説等の策定**

- ・オンラインシステムを併用しつつ国立アイヌ民族博物館におけるアイヌ語表現・新語検討ワーキング会議を1回開催し、表現・新語の検討を行った。
- ・オンラインシステムを併用しつつ国立アイヌ民族博物館におけるアイヌ語表示・展示解説検討委員会を2回開催し、アイヌ語による表示・解説の方針等の意見聴取を行った。

**③資料の収集・保管**

**(ア) アイヌ関係資料の収集（買取、寄贈、寄託等）**

- ・アイヌ関係資料について、買取：申出者6名より83件1,341点、寄贈：申出者5名より11件96点、寄託：申出者3名より10件10,311点を受け入れた。

**(イ) 収蔵資料等の整備（クリーニング等）及び適切な保管、整理と管理システム登録等**

- ・列品、寄託品等のクリーニング作業(約2,000点)や買取資料、図書等について生物処理（凍結処理、低酸素濃度処理、過酸化水素殺菌処理等/約100点）を実施した。

- ・旧(一財)アイヌ民族博物館の資料と文化庁購入資料等についてシステムへの登録作業を行うとともに、一部データの外部公開を行った。令和8年度に実施するシステム更改に向けて、登録データの確認を行い、管理系・公開系の機能や設定等の修正・追加の要望をとりまとめ、仕様を検討した。

資料登録件数(R8. 3. 31 現在)	14,049 件
資料更新件数	726 件
画像登録件数	17,366 件
音声登録件数	14 件
映像登録件数	1 件

**(ウ) 中期的な列品等の修理計画の作成、修理の実施**

- ・劣化が進み修理の緊急性の高い列品資料(掛軸/1 幅)の本格修理を着工した。
- ・寄託品(舟/2 艘)の修理が完了した。

**(エ) 収蔵資料等の貸出、特別観覧及び資料等の画像利用への対応**

- ・下記のとおり収蔵資料等の貸出、特別観覧及び画像利用への対応を行った。

収蔵資料等の貸出(外部)	6 件	228 点
収蔵資料等の特別観覧の許可(外部)	15 件	223 点
資料等の画像利用の許可件数(外部)	32 件	271 点
内部での特別観覧件数	49 件	1,836 点
内部での画像利用件数	7 件	102 点

**(オ) 科学分析機器等の適切な運用、保守管理**

- ・当館設置の科学分析機器等を使用して列品や借用資料等に関する調査研究、展示、保存等に必要分析等を行った。特別展示に伴う借用資料の材質調査(蛍光X線)・構造調査(CT)、模型製作(3Dプリンタ)など約350件を実施した。
- ・定期メンテナンスの実施等、常に当該装置の性能が発揮できるよう保守管理を行った。

**(カ) 文化財資料の収蔵環境整備(IPM含む)に関する計画の作成、環境整備の実施**

- ・収蔵庫内及び展示室/展示ケース内の空気汚染物質の測定や温湿度制御の実施、害虫トラップの設置による虫菌害の監視など、収蔵環境整備を適切に実施するとともに、当館収蔵庫内のIPMメンテナンスを実施した。国指定品(重要文化財等)の借用、公開に支障のない展示収蔵環境を構築した。
- ・買取資料等の害虫やカビの被害が見られたため、是正対応として殺虫・殺菌処置を実施した。

**(キ) アイヌ語アーカイブ事業(音声資料のアーカイブ作成、アイヌ語辞典のweb公開等)の実施**

①資料公開関連業務

- ・今年度の新規公開資料はなし。次年度以降の資料公開に向けて、アイヌ語話者の遺族との交渉に着手した。対象となる当館資料は下記のとおり。これらは次年度中に、平成9年6月に成立(平成10年1月施行)した著作権法改正に従い、権利者と「送信可能権」を含めた契約を交わし、謝金を支払う予定である。

ー西島てる氏会話資料、口承文芸資料19件、計9時間40分

ー木村きみ氏口承文芸資料2件、計55分

②web上のアーカイブにかかる業務

- ・今年度はバックアップを取るなど、運営上の管理を実施した。次年度以降はこれらとあわせ、web上にアップするシステムを最新バージョンに変更するなどの業務を委託する予定である。

③京都大学との研究協力について

- ・旧(一財)アイヌ民族博物館時代となる平成29年度から現在まで、京都大学河原達也教授及び河原研究室と協力関係にある。

- ・同研究室が開発したアイヌ語 AI の音声認識システムを令和 7 年度の当館共同研究 2025K03 においてソフトウェア化し、当館の担当者が合成音声を作成できるようになった。今後も引き続き特別展示・テーマ展示の開会時に行う館長によるアイヌ語挨拶の練習素材として有効利用したい。
- ・今年度から慶應義塾大学で始まった文化庁国語課より受託の「アイヌ語のアーカイブ作成支援事業」による聞き起こし事業と、当館のアイヌ語アーカイブと京都大学の三者連携の中で、AI が書き起こしたアイヌ語（ローマ字）をアイヌ語学習者が校閲しながら聞き起こしていく「書き起こし修正エディタ」を同研究室が開発した。今後のアイヌ語学習への応用が期待される。なお、この事業の成果品は、次年度よりアイヌ語アーカイブに順次掲載していく予定である。

④ sakana. ai との AI 関連研究協力について

- ・今年度 sakana. ai 社の SEO Llion Jones 氏と同社の言語学者 Richard Sproat 氏（いずれも Google 出身）より、アイヌ語文章生成 AI の開発について、千葉大学名誉教授中川裕氏を介して依頼があった。これを受けアイヌ語アーカイブの口承文芸資料の文字データを複製し提供した。どのような AI ができるかはまだ不確定であるものの、引き続き意見交換しながら開発にあたっていく。

④教育普及

(7) 博物館における社会教育事業(講演会、講座、研修、ギャラリートーク、ワークショップ等)及び博学連携の教育事業(遠隔授業等)の企画・立案及び実施

- ・下記のとおり社会教育事業等を実施した。

実施事業	回数・参加者数等	備考
社会人研修	18 団体：17 回 628 名	社会人、教育委員会等
ギャラリートーク	73 回 648 名	基本的に土・日・祝の 1 日 2 回実施
ホリデーイベント	79 回 3,260 名	工作型 4 件 183 名、講演型 9 件 228 名、対話型 18 件 2,027 名、ガイド型 48 件 822 名
遠隔授業	8 件：7 回 計 416 名	幌延町立幌延中学校など（全てのオンラインでの授業を掲載）
その他出張イベント	1 件約 700 名	こども霞が関見学デー（8 月 6 日・7 日）

- ・基本展示室内用のワークシート「タンペ ヘマンタ アン？（アミプ）これなあに？（衣服編）」、「アイヌ語を探してみよう！」を開発。館内配架の他、ホームページからダウンロードできるようにした（ワークシート 5 種類の総配架数：25,400 部）。
- ・白老町教育委員会の依頼に応じ、白老中学校（9 月 11・12 日：1 名）・白翔中学校（10 月 21 日・22 日：2 名）の生徒の職場体験学習を実施した。
- ・令和 8 年度に向けて、ホリデーイベント連続講座「ウポポイ大学」を企画し、参加者の募集を開始した。
- ・国立アイヌ民族博物館としては初めての、博物館年間スケジュール（展覧会開催期間及びイベント開催日程）の公開を 12 月に行った。

(イ) 北海道アイヌ協会との協定に基づく技術研修者の受入及び技術研修の実施

- ・協定に基づく技術研修「アイヌ工芸者技術研修会」について、12 月から 3 月にかけて、参加者 1 名（伊達市）を受入れ、衣服について 6 日間の研修を実施した。

(ウ) アイヌの人たちに対する研修等の実施

- ・「テンキ（ハマニンニク製小型容器）技術指導者育成事業」の実施。3 名（札幌市、幕別町、平取町）及び公園職員 1 名の計 4 名が研修に参加した。次年度以降も実施予定。
- ・「アイヌ語表現・新語に係る実践研修」の実施。オンライン含め 3 名の参加があった。次年度以降

も実施予定。

**(イ) 学芸員を目指す学生に対する博物館実習の受入に向けた実習実施計画の検討・作成**

- ・博物館実習の受入に向け、現時点での課題を整理し検討を重ねた。現状では、場所や人員の確保が難しいため、今後も引き続き検討を続ける。

**(ロ) 教育旅行等向け教育プログラムの企画・立案、実施及びプログラムの改善**

- ・これまで学校や教育機関向けに提供していた各種プログラムについて体系化し、国立アイヌ民族博物館 教育プログラム「アプカシ」として新たに企画・実施した。
- ・学校団体向けプログラム「はじめてのアイヌ博」を、来館した小・中・高等学校等延べ120校、引率含む8,073名に対して実施した。
- ・国立アイヌ民族博物館 教育プログラム「アプカシ」が提供するものとして、「教育旅行のためのオンライン事前授業」を企画し、教育旅行前の事前学習および遠隔授業として小・中・高等学校等延べ8校、教員を含む416名に対して実施した。
- ・大分県上野丘高等学校のGS(Global Study)活動の一環として探究型修学旅行に協力した。生徒39名に対して事前にオンラインによる計3回のレクチャーおよびメンタリングを行い、当館にて探究課題の内容を深め、最終的にポスター発表としてまとめるという活動を行った。
- ・幼稚園・保育園等に積極的に博物館を活用していただくために、来館時の案内とアイヌ語やアイヌ文化に関する簡単なレクチャーを計11施設に実施した。

**(ハ) 学校の授業で使うアイヌの歴史と文化に関する学習教材の開発**

- ・幼児向け教材として、ウポポイPRキャラクターのトゥレップンとアイヌ語に触れることができる、絵本型の教材の開発をすすめた。

**(ニ) 教員や公務員を対象としたアイヌの歴史・文化に関する研修の企画及び協力**

- ・教員向け研修会として「教員のための博物館の日 at 国立アイヌ民族博物館」を会場とオンラインで1月10日に開催した(参加人数：会場参加30名、オンライン参加7名)。

**(ホ) ウェブサイト・SNSの管理・更新**

- ・展覧会における広報用のページを作成し、関連イベントにおける詳細が書かれたページとともに当館ウェブサイト上で公開した。
- ・展覧会における広報用ページは、多言語化(英・簡・繁・韓)を行い、各展覧会が開催される前までに公開した。
- ・「第8回テーマ展示」から「第9回テーマ展示」では、展覧会に関わる情報が毎週SNS(InstagramやFacebook)に掲載されるよう広報を行った。加えて、令和7年度は展覧会情報にとどまらず、博物館全体のSNS広報にも積極的に取り組んだ。その結果、SNS広報実績は168件となった。

**(ヘ) 博物館の各種イベント、展示等に関する広報業務の企画立案・実施**

- ・各展示の展覧会案内ページについては、展覧会が開催する6か月前から公開できるよう努めた。また、プレスリリースの公開時期に合わせ、開催3か月前に概要や関連イベント情報の拡充を行った。
- ・「PRTIMES」の「非営利団体サポートプロジェクト」を活用し、専用サイトにおいて広報を実施した。令和7年度は「第8回テーマ展示」から「第9回テーマ展示」までの展覧会広報に加え、講演会や国際シンポジウムなど、博物館全体の広報にも積極的に取り組んだ。掲載件数は17件で、633サイトに2次掲載された。
- ・イベント集客サイト「EventBank」における広報について展示ごとの広報を実施した。2次掲載の件数は55件で、120のサイトやアプリに2次掲載された。
- ・白老町を対象としたプッシュ型の広報として、白老町内の回覧板およびLINE公式アカウントを活用した。回覧板の活用は令和7年度中に5回実施し、白老町LINE公式アカウントによる発信は月1回ペースで12回行った。
- ・広告について、新聞社3社、広告代理店1社と契約した。運営本部広報課とも連携し、各媒体へ

の広報を行った。年間広報実績（第8回テーマ展示～第9回テーマ展示）は次のとおり。

- －新聞（記事・広告含む）：130件、メールニュース：24件、雑誌（記事・広告含む）：29件、WEBメディア：633件、TV番組：14件、WEBプロモーション実施：2件（1件目：4月1日～4月22日、2件目：7月28日～8月17日）

## ⑤博物館全体の運営

### (7) 博物館運営に必要な物品、役務等の調達

- ・展示備品（文書複製）や特別展の造作等、博物館運営に必要な物品や役務の調達を行った。

### (イ) ライブラリの運営（図書選書、配架、閲覧、複写等）

- ・特別展示・テーマ展示の会期に合わせた展覧会特設コーナーの設置やライブラリ小展示の実施、図書館間相互利用（ILL）文献複写等料金相殺サービスへの加入等の機能向上を図った。開架は12,871名が利用した。
- ・大学図書館ソリューション（iLiswave-J）への図書登録作業を行い、今年度で1,272冊の登録を完了し、総蔵書数が約39,833冊となった。

### (ウ) 博物館活動状況や成果等の社会発信のため、研究紀要等刊行物の編集/発行と、広報活動の企画立案、広報媒体の作成及び展開

- ・研究成果の社会発信を下記のとおり行った。

内 容	件 数	備 考
論文	16件	査読有7、査読無9
学会発表	22件	国外6、国内16
図書	17件	
寄稿、解説等	28件	
講演会、講義	123件	
各種委員	12件	
外部資金獲得	12件	
表彰・受賞	2件	

- ・当館における研究成果及び活動内容等を研究機関等に発信するために、国立アイヌ民族博物館ニュースレター「アヌアヌ」（年4回：20～23号）を発行した。
- ・国立アイヌ民族博物館年報2023（令和5）年度の電子版を博物館公式ウェブサイトに掲載し、あわせて印刷版を発行して関係機関等に配布した。2024（令和6）年度については、電子版を博物館公式ウェブサイトに掲載している（令和8年度に発行予定）。
- ・国立アイヌ民族博物館研究紀要第3号の電子版を博物館公式ウェブサイトに掲載し、あわせて印刷版を発行して関係各所に配布した。第4号について、投稿論文の公募を行った（令和8年度に発行予定）。[再掲]
- ・ウポポイ誘客促進事業を通じて博物館の情報発信・広報活動を行うとともに、新聞コラムでの関連記事掲載や、TV等マスコミ等の取材協力等を通じた広報活動を展開した。
- ・特別展、テーマ展開催に際し広報計画を作成し、プレスリリースやマスコミ向け内覧会の実施、ポスター・チラシ等の配布、新聞広告、ホームページ上で広報等を行った。

### (エ) 館内LAN等情報機器の運用及び保守管理

- ・セキュリティ対策等の環境整備及び保守管理を行うとともに、情報セキュリティ委員会を開催し、各職員による情報漏えい対策を行った。

### (オ) 博物館施設の維持管理（施設設備管理、警備、清掃、廃棄物処理等）の実施

- ・博物館施設を良好な状態で維持管理するため、建物設備等の点検、24時間常駐による警備、館内各所の清掃、廃棄物処理等を適切に実施した。

### (カ) 来館者対応業務（受付・案内、音声ガイド貸出・回収、監視、混雑時の誘導等）の実施

- ・博物館内各所(入口、受付カウンター、シアター、基本展示室・特別展示室、ライブラリなど)に必要な要員を配置し、来館者への接客対応や案内等を行った。
- ・博物館サイネージの多言語化(英・中・韓)を実施した。

#### (キ) ウポポイにおけるアイヌ語体験プログラムの実施

- ・アイヌ語体験プログラム(「アイヌ イタカリ アイェ ロ!」、「ピリカ! ビンゴ アキ ロ!」)をシノッ チセで実施し、口承文芸実演プログラム(ネウサラアン ロ)をポロ チセで実施した。
- ・特別プログラムとしてイベント時期に合わせて「アイヌ語〇×クイズ」と「アイヌ語マナー講習」を実施した。
- ・伝承者を招聘した特別版口承文芸実演プログラムを2回実施した。

## II 民族共生象徴空間収益事業

### 1 テナント管理事業

来場者に対して、飲食・物販の基本的サービスに加えて、アイヌの伝統的料理や伝統工芸品などを販売するために、テナント管理を実施した。また、飲食3店舗及び物販2店舗に関し、売上管理、テナント指導(衛生管理、商品管理、利用者サービス)等を実施した。

### 2 駐車場事業

車で来場する方のために園内第1駐車場、園外第2駐車場及び慰霊施設駐車場の維持管理を実施した。

#### ①駐車場の維持管理

自動ゲート等の設備の維持管理を行うとともに、必要な警備員を配置し来場車両の誘導整理を実施した。

#### ②駐車場料金の徴収

自動ゲート及び園内事前精算機により、駐車場利用者からの料金徴収を実施した。また、白老町によるウポポイ町民利用促進事業により配付された年間パスポート利用者を対象として駐車料金を無料とした。

### 3 その他事業等

コインロッカーや自動販売機、コーヒーマシンを設置し、来場者にサービスを提供した。また、ケータリングカー等を配置し、飲食を提供した。

#### ①コインロッカーの設置

エントランス棟にコインロッカーを設置し、来場者の利用に供した。また、エントランス棟総合案内所において手荷物預かりサービスを実施した。

#### ②自動販売機の設置

園内6箇所に自動販売機を設置し、来場者の利用に供した。

#### ③総合案内所でのコーヒーの提供

エントランス棟総合案内所にコーヒーマシンを設置し、ドリップコーヒーの提供を実施した。

#### ④収蔵品等の画像使用

列品等を来場者の特別観覧に供した。

#### ⑤バナー広告

ウポポイ公式HPへの民間企業等の広告掲載を受け付けた。

#### ⑥ケータリングカー等の配置

園内適所にケータリングカー等を配置し、来場者の利用に供した。

**<法人運営>**

**第1 諸会議の開催**

**1 評議員会**

区 分	開催月日・場所	決議事項等
第1回 定 時	6月23日(月) かでの2・7	報告事項 報告第1号 令和6年度事業報告について 決議事項 議案第1号 令和6年度決算報告書承認について 議案第2号 評議員の選任について 議案第3号 理事の選任について 議案第4号 監事の選任について
第1回 臨 時	3月13日(金) かでの2・7	決議事項 議案第1号 令和7年度収支補正予算について 議案第2号 令和8年度事業計画書承認について 議案第3号 令和8年度収支予算書承認について 議案第4号 令和8年度資金調達及び設備投資の見込みについて 議案第5号 アイヌの人々の誇りが尊重される社会を実現するための施策の推進に関する法律第23条第1項に基づく事業計画書及び収支予算書の認可申請について 議案第6号 評議員及び役員の報酬等及び費用弁償に関する規程の一部改正について

**2 理事会**

区 分	開催月日・場所	決議事項等
第1回 定 例	6月4日(水) かでの2・7	報告事項 報告第1号 理事長及び常勤の理事の職務執行状況について 決議事項 議案第1号 令和6年度事業報告書承認について 議案第2号 令和6年度決算報告書承認について 議案第3号 定時評議員会開催について
第1回 臨 時	6月23日(月) かでの2・7	決議事項 議案第1号 理事長、副理事長及び専務理事の選定について 議案第2号 代表理事の選定について 議案第3号 重要な使用人を兼ねる理事の選定について 議案第4号 報酬を支払う理事の報酬額について 議案第5号 役員等職務権限規程の改正について
第2回 臨 時	10月29日(水) しらおい経済センター	報告事項 報告第1号 理事長及び常勤の職務執行状況について 報告第2号 令和7年度事業の進捗状況について 報告第3号 令和7年度補助事業に係る予算要望について 報告第4号 一貫性のある財団ブランドイメージの構築について 決議事項 議案第1号 当財団理事との利益相反取引について
第2回 定 例	3月5日(木) かでの2・7	報告事項 報告第1号 理事長及び常勤の理事の職務執行状況について 決議事項 議案第1号 令和7年度収支補正予算について 議案第2号 令和8年度事業計画書承認について 議案第3号 令和8年度収支予算書承認について 議案第4号 令和7年度資金調達及び設備投資の見込みについて

区 分	開催月日・場所	決議事項等
		議案第5号 アイヌの人々の誇りが尊重される社会を実現するための施策の推進に関する法律第23条第1項に基づく事業計画書及び収支予算書の認可申請について 議案第6号 役員賠償責任保険の加入について 議案第7号 当財団理事との利益相反取引について 議案第8号 評議員及び役員の報酬等及び費用弁償に関する規程の一部改正について 議案第9号 臨時評議員会の開催について

### 3 常任理事会

区 分	開催月日・場所	決議事項等
第1回	5月28日(水) ウポポイ管理運営施設	協議事項 第1号 理事長及び常勤の理事の職務執行状況について 第2号 令和6年度事業報告書承認について 第3号 令和6年度決算報告書承認について 第4号 定時評議員会開催について
第2回	10月22日(水) ウポポイ管理運営施設	協議事項 第1号 理事長及び常勤の理事の職務執行状況について 第2号 令和7年度事業の進捗状況について 第3号 令和8年度補助事業に係る予算要望について 第4号 一貫性のある財団ブランドイメージの構築について
第3回	2月26日(水) 財団会議室	協議事項 第1号 理事長及び常勤の理事の職務執行状況について 第2号 令和7年度収支補正予算について 第3号 令和8年度事業計画書承認について 第4号 令和8年度収支予算書承認について 第5号 令和8年度資金調達及び設備投資の見込みについて 第6号 アイヌの人々の誇りが尊重される社会を実現するための施策の推進に関する法律第23条第1項に基づく事業計画書及び収支予算書の認可申請について 第7号 役員賠償責任保険の加入について 第8号 当財団理事との利益相反取引について 第9号 評議員及び役員の報酬等及び費用弁償に関する規程の一部改正について 第10号 臨時評議員会の開催について

### 4 事業運営委員会

#### ①委員

職 名	氏 名
委員長	小川 哲也
副委員長	宇治 義之
委 員	岡田 勇樹、川上 恵、菊池 基弘、城石 梨奈、菅原 勝吉、戸ノ崎郁美、藤岡千代美、丸子美記子

## ②開催状況

区分	開催月日・場所	議事等
第1回	5月23日(金) 財団会議室	協議事項 (1) 副委員長の指名について (2) 令和8年度概算要望について (3) 令和8年度アイヌ語ラジオ講座講師について (4) 令和8年度アイヌ工芸品展企画委員会委員について (5) 令和7年度青少年国際文化交流研修事業応募者選考要領・評価方法について 報告事項 (1) 令和7年度各種助成事業の申請・採択状況について (2) 令和7年度各種アイヌ語講座及び実践上級講座実施状況について
第2回	10月10日(金) 財団会議室	協議事項 (1) 令和8年度各種助成要綱について 報告事項 (1) 令和7年度事業進捗状況について (2) 令和7年度青少年国際文化交流研修事業参加者の選考結果について (3) 令和7年度実践上級講座(儀礼)の受講生について (4) 令和8年度伝承者育成事業(昼間型)第7期生の応募状況について (5) 令和8年度概算要望について
第3回	2月5日(木) 財団会議室	協議事項 (1) 令和8年度事業実施要領について (2) 令和8年度アイヌ文化伝承活動アーカイブス作成事業企画委員について (3) 令和8年度助成事業審査委員について (4) 令和8年度アイヌ関係資料評価委員について (5) 令和7年度アイヌ関連総合研究等助成事業研究報告掲載審査委員について (6) 令和8年度アイヌ工芸品展中長期計画策定委員について (7) 令和8年度アイヌ文化フェスティバル・普及啓発講演会に係る出演候補者について (8) 令和8年度アイヌ工芸作品コンテスト審査委員について (9) 令和8年度アイヌ文化賞の表彰要綱の改正について (10) 令和8年度アイヌ文化賞等被表彰者選考委員について (11) 令和8年度アイヌ語指導者育成事業の講師について (12) 令和8年度アイヌ語動画講座企画編集委員について (13) 令和8年度アイヌ語弁論大会審査委員について (14) 令和8年度幼児向け絵本(原作)募集に係る選考委員について (15) 令和8年度アイヌ文化普及啓発セミナー開催日程・会場及び講師について (16) 令和8・9年度アイヌ文化活動アドバイザー登録候補者について (17) 令和8年度各種委員に係る委員候補者について

## 5 助成事業審査委員会

### ①委員

任期 (R7. 3. 14 ~ R8. 1. 31)

職 名	氏 名
委員長	菅原 勝吉
副委員長	五十嵐聡美
委 員	小川 哲也、斉藤 大朋、菅原 慶郎、長野 環、藤原 顕達

### ②開催状況

区 分	開催月日・場所	議 事 等
第1回	3月24日(月)～25日(火) 財団会議室	令和7年度各種助成事業に係る審査・選考 ①国内文化交流 ②伝統工芸複製 ③国際文化交流 ④伝統工芸展示・公開 ⑤風俗慣習に関する伝承 ⑥出版 ⑦研究
第2回	6月5日(木)～16日(月) 書面審査	令和7年度各種助成事業(2次募集)に係る審査・選考 ①国内文化交流 ②伝統工芸複製 ③伝統工芸展示・公開 ④研究

## 第2 法人運営体制

### 1 法令順守体制の整備

- ・職員および役員による法令等違反行為に関する内部通報に適切に対応する体制を整備することにより、違反行為の早期発見および是正を図り、財団運営におけるコンプライアンスの確保を目的として「内部通報規程」を施行した。
- ・当該年度における通報件数は0件であったが、今後も引き続き、制度の周知徹底および運用の改善を図り、透明性と信頼性の高い組織運営の実現に努めていく。

### 2 研修・啓発活動

- ・役員を対象とした定期的な各種研修を実施することにより、コンプライアンス意識の醸成を図るとともに、職員の業務理解の深化及びモチベーションの向上に努めた。これにより、組織全体としての意識統一と健全な職場環境の維持・向上に寄与した。

### 3 ガバナンスの強化

- ・6月に実施された役員改選において、理事20名、評議員19名、監事2名が選出された。理事のうち7名以外については、法人外部の人材を役員等として選任した。これにより、法人運営における客観性および透明性の確保を図るとともに、法人機関のさらなる健全な機能強化を目的とした体制整備を行った。

## 第3 賛助会員の状況

引き続き賛助会員募集に関する周知を徹底し、会員数の一層の拡充に努めていく。

区 分	入会者数	退会者数	現 在 数	備 考
個人会員	16	15	88	アイヌ文化普及啓発資料としてカレンダーを作成し配布
法人会員	2	0	14	
合 計	18	15	102	

令和7年度事業報告には「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書に記載すべき「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので、これを作成しない。

2026（令和8）年6月18日

公益財団法人 アイヌ民族文化財団